

Evolution of the human and the space

ライトコード4

アンドロメダ銀河とオリオンのコード



アンドロメダ銀河とオリオンのコード 目次

- 第1章 アンドロメダ銀河の危機
- 第2章 アンドロメダ銀河大戦争の終結
- 第3章 オリオン星雲の魔法使い達
- 第4章 オリオンコードと宇宙意識
- 第5章 デバイン・ボディ&デバイン・スピリット
- 第6章 ペガサスコードと新たな調和の星
- 第7章 宇宙のドラゴンたちと「宇宙の意志」

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式 HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

第1章 アンドロメダ銀河の危機

PART1 アンドロメダ銀河を襲う宇宙母船とデモニ

今日は京子さんとの大天使ラジエルのアチューメントの日でした。

大天使ラジエルのアチューメントで大天使シリーズが終わりますので、私は大天使ラジエルにお願いしました。

「今日は京子さんのスピリットが持っている苦しみや悲しみの中で最大の物を浄化してあげてください。」

大天使ラジエルのアチューメントは、いつでも思いがけないほど素晴らしい展開を見せてくれますので、私も楽しみなアチューメントの一つです。

大天使ラジエルの祈りの言葉を唱え、ラジエルの神殿に入り、京子さんとラジエルの光をつなげます。

そしてその後、大天使ラジエルが、私達を連れて宇宙へと飛び立ちます。

私達は、光の通路を通り抜けて一つの星に近づきます。

さほど大きくない星のようですが、美しく整った素敵な星のようです。

私達が、この星に降り立つと星の人々が迎えてくれます。

皆さん、美しい羽を持った天使のような人達で、とても高い意識と叡智を持っている事がすぐにわかります。

私はこの星のマスターに出てきてもらい挨拶をします。

「皆さんこんにちは、私達は地球からやってきた TAKESHI と京子です。

とても素敵な星の皆さんにお会いできてうれしく思います。

それで、ここはどの星か教えてもらえませんか。」

「この星はアンドロメダ銀河の中にある星です。

私達の銀河の中でも、とても美しく素晴らしい星の一つです。」

私は、大天使ラジエルに、私達がここに来た理由を尋ねました。

どう考えても、この星の人たちは幸福そうで、京子さんがとても大きな悲しみを背負うような雰囲気は見当たりません。

大天使ラジエルが、私達にビジョンを見せてくれました。

京子さんの表情が一気にこわばっていくのがわかります。

この星が暗い雲に覆われ、多くの小型戦闘宇宙船が星の周りをとび回り、地表に向けて攻撃を繰り返しているのです。

小型宇宙船からは、レーザービームのような光が地上に放たれ、建物が破壊され多くの人々が吹き飛ばされていきます。

あの美しい羽を持った人達も羽が飛び散り、血まみれになって傷つき苦しんでいます。

この星には、自分達を守る宇宙船もさほどなく、逃げ出そうとする宇宙船も次々と、撃ち落とされていきます。

星の空には宇宙船の残骸が散らばり、見るも無残な光景が広がっています。

京子さんは、悲鳴にも似た声を上げます。

星の地上では、大きな建物の前に着陸した宇宙船からたくさんの兵士達が降り、建物の中にいる人達を捕まえて宇宙船の中に連れて行っています。

勿論、抵抗する人たちには容赦なく銃が向けられます。

建物の中の科学者のような人達を捕まえた船は、地上を飛び立ち、飛び回る小型宇宙船の間を抜けて、宇宙空間へと飛んでいきます。

その先には、見たことも無いような大型の宇宙母船が待っており、そこから小型の宇宙船がたくさん出入りしているようです。

おそらく彼等はこの巨大母船で宇宙を旅してきたのでしょう。

PART2 アンドロメダ銀河のマスターの苦痛

私は、アンドロメダ銀河のマスターであるアールスターを呼び出します。

彼は、アンドロメダ銀河の中心であるアールスター星のマスターであり、アンドロメダ銀河の叡智ある存在達で作っているアンドロメダ銀河連合の代表でもあります。

私は、アールスターに事情を聴きます。

「TAKESHI さん、これはアンドロメダ銀河の過去に起こった大変な争いの様子です。

争いといっても、相手は巨大な攻撃力を持っており、しかも暗黒の雲であるデモニと一つになってアンドロメダ銀河に入ってきました。

巨大な暗黒の雲であるデモニによって、各星のエネルギーは無力化され戦闘のシステムはもちろん星を運営するためのシステムもみなダウンしてしまいました。

その上、小型戦闘機によって、主要な建物や人々が攻撃を受け、私達はなすすべもなく崩壊させられてしまいました。」

「アールスターよ、あなた方の銀河にも優秀な騎士団や宇宙連合がったはずですが、彼らと戦えなかったのですか。」

「実は、彼らは、アンドロメダ銀河の主要な3つの星を同時に攻撃してきましたので、私達はアールスター星から動くこともできずに、他の星を助けに行く事ができませんでした。

デモニの電磁波の影響で、たとえ助けに行けたとしても、彼らの攻撃を止める前に、私達の船が破壊されていったことでしょう。」

見るからに落胆し、悲壮な表情をアールスターは浮かべています。

「この戦いは、以前私達がアンドロメダ銀河に入った時に、多くの騎士団やマスター達がブラックホールに閉じ込められていましたが、その事とも関係がある戦いですか。」

「そうです、アンドロメダ銀河の中でも、彼らの攻撃力を恐れて、彼らの味方になる星も次々と現れました。そしてアンドロメダ銀河の星同士が戦いあうようになってしまったのです。」

「アールスターよ、このアンドロメダ銀河を襲ったのはアンドロメダ銀河の人達ですか。」

「いいえ違います。」

アンドロメダ銀河の外からやってきた人達で、この宇宙を支配しようとする強力な意思を持っています。その意思が、宇宙の暗黒のエネルギーと共鳴して、考えられないほどの巨大なデモニを創りだしてしまったのです。

私達も予測していましたが、まさかこれほど巨大な存在になるとは思っていませんでした。」

「アールスターは、先ほど3つの星が同時に襲われた、と言っていました、被害はそれだけですか。」

「TAKESHIさん、実のところ被害に関しては、私達も予想がつかないのです。」

というのも、彼らは、自分たちの星系からアンドロメダ銀河にはいつまで、この3つの星を標的として、移動してきたのですが、その途中にある星々もことごとく破壊されました。

私達はどれだけの星が被害にあったのかさえも、わからないのです。」

「そのようなことまでして、彼らが必要としているものとは、何なのですか」

「私達もよくわからないのですが、彼らは遺伝子工学や最新物理学、宇宙工学などに関する建物を襲い、その科学者たちをたくさん連れていっていますので、おそらくそのような技術を使って、宇宙を支配したり、自分達に都合の良い種族を創りだそうとしているのではないかと思います。」

PART3 アンドロメダ銀河の戦いによる悲しみを癒すためには

私はしばらく考え込みます。

京子さんの最大の悲しみとは、この戦いによって自分たちの仲間達をたくさん失ったことなのです。始まる前は、「君の悲しみは、僕が何とかしてあげるから・・・」とか、カッコいい事を言っていたのですが、少し規模が大きすぎます。

このアンドロメダ銀河が襲われた時の苦しみや悲しみを癒すためには、この争いそのものを何とかしなければなりません。

京子さんも、「私も小さいころから、争いや戦争がとても怖いものを感じていました。その光景を見るだけでも、恐ろしくて心が震えそうになるのです」と乙女なことを言っています。

私は、しばらく考え込んでしまいました。

この時の苦しみや悲しみは、おそらく人間としての潜在意識のみならず、彼女のスピリットにも大きく関係したことのようです。

そしてこの時の体験は、彼女だけでなくアンドロメダ銀河の争いを体験したすべての人達が抱えている苦しみかもしれません。

もしこの戦いによる苦しみや悲しみを癒すことができたなら多くの人達の魂やスピリットが救われるのではないかと、私は考えました。

しかしこの戦いは大きすぎます。

デモニだけなら、前回プレアデイス星団を襲ったデモニを処理してプレアデイスを救いましたので、おそらく不可能ではないと思うのですが、今回はデモニだけでなく、大型の宇宙母船を操り、宇宙の支配を目指す種族が相手ですから、こちらもまともに戦うわけにはいきません。

私は、アールスターにこの戦いはどうなるのか尋ねました。

「TAKESHI さん、歴史の上ではあなたがこの危機を助けてくれることになっているのです。」

私は、冷や汗が出そうになります。

すでに歴史的には解決しているようですが・・・。

私は、ユニバーサル・パレスに行き、ユニバースに存在する多くの銀河や星団のマスター達に相談することにしました。

私達は、ユニバーサル・パレスの会議場に入りました。

いつものように、メンバー達が全員そろって待っています。

私とアールスターにより今回の事情が報告されると、いくつかの銀河や星団のマスター達も、彼らの事は知っているようで、数名のマスターから同じような意見が出されました。

ただ、どのように解決したらよいか、その糸口がつかめないようです。

私達が、様々なことを話していると、このユニバーサル・パレスのさらに上の次元に存在するデバイン・マスターの評議会からおよびがかかりました。

私は、ユニバーサル・パレスから、京子さんと共に、さらに上の次元に上がり、マルチバースの創造を司るデバイン・マスターの元に私達は出向きます。

彼らの評議会の席に私が到着すると、マスターの一人が話をします。

「今回のアンドロメダ銀河の争いの話は、私達も知っています。

この大きなマルチバースから見れば、取るに足らない問題ですが、皆さんにとっては、とても大切な話です。基本的には、TAKESHI さんがどのようにするのは、決めてくださっていただいてよいのですが、今回の事を通して多くの人達が、大切なことを学んでいることを理解してください。

そして、あなたが行う方法を提示して、私達の許可を得てください。」

私は、少し彼らと話をします。

京子さんも、いくつかのサポートをしてくれます。

この問題は、いくつかのテーマがあるようです。

それは、侵略が行われた事実は変えてはいけない、このことを体験することで、多くの事を学ぶ必要があるからということと多くの生命をどのようにして救うかということです。

私はしばらく考え込み、そして決断しました。

PART4 星の人々の救出作戦

私は、前回フェアリーの星で行った救出作戦をもとに、この争いを解決するための方法を考えました。

そしてその方法を、デバイン・マスター達に話をして許可を得ました。

私達は、マルチバース・パレスの会議室に戻りました。

「皆さん、これから私がお願いすることに協力してくれませんか。

今回の事に関して、アンドロメダ銀河への彼らの侵略は、歴史的な事実であり、またそのことについての多くの学びがあるので止めることはできません。」

会議場の中で、ため息が漏れる音がします。

「しかし私達は、アンドロメダ銀河の主要な3つの星に対して、そこに住んでいる生命達を救うことはできません。

皆さんの宇宙船を貸していただきたいのです。

皆さんの宇宙船に、星の人々や動物を載せ、他の星に移住させておきます。

勿論、攻めてくる宇宙船には、この移住がわからないように魔法でカモフラージュしておかねばなりません。彼らが侵略する前までに移住を完成させることができれば、彼らは、だれもいない空っぽの星を攻撃することとなります。

勿論その星の自然や動植物にたいして少なからず被害は出ると思いますが、大切な種族の命だけは守ることができます。」

会議場にいるメンバーからは歓声が聞こえてきます。

「ただしこの作戦は、だれにも分からないように秘密の内に行わなければなりませんので、皆さん、どうか誰にも内緒でこの計画を進めてください。

宇宙に存在する多くの魔法使い達は、皆さんで協力して、彼らの目を欺くための方法も考えてください。

それでは、このアンドロメダ銀河が侵略される1か月前に時間をあわせて行動を開始したいと思います。

アールスター、イエス、そしてアンドロメダ銀河の騎士団よ、皆さんがリーダーになって、この計画をしっかりと進めてください。」

私達は、1か月前に時間軸を設定して、その間に星の人々の移住を行うこととしました。

PART5 スピリチュアルな能力を活性化する松果体のコード

私達は、侵略が行われる前日、つまりデモニと宇宙空母がアンドロメダ銀河の3つの星に到着する前日にタイムトリップしてきます。

私達は、彼らに攻撃される前に3つの星を見て回ります。

最初に行った星もそうですが、アンドロメダ銀河の中心となるアールスター星も大変すばらしい星です。

私達とアールスターやイエス様と深い関係を持つようになったのも、このアールスター星がきっかけでした。

アールスター星は、アンドロメダ銀河の中でも最も文明や化学技術が発達した星です。

そして私達はここから、局部銀河を統治する創造主の元へといく事ができました。

そしてもう一つの星は、小さな星ですが、遺伝子工学に関するアンドロメダ銀河最大の研究所がある星です。

私達は、その星に降り立ち研究所を尋ねました。

研究所では、私達を迎えるために、数名のリーダー達が残っています。

「TAKESHIさん、今回は皆さんの計画のおかげで、私達の研究所の成果を守ることができそうです。

本当にありがとうございます。」

私達は、今の 21 世紀において、人類進化のための遺伝子の進化に関する研究を行っていることを伝えました。

そして先日、アンドロメダ銀河の隠された次元の遺伝子研究所を訪れたことも話しました。

「そうでしたか、あの遺伝子ラボに行かれたのですね。

実は、この研究所が攻撃の対象に今回なったために、私達は人目につかない場所、そして誰も入らない場所に、遺伝子研究所を創る計画を立てようとしています。

つまり、この研究は、決して悪利用されてはいけないものですから、悪意のある人から隠されなければならないのです。

そうですか、未来においては隠された次元に、この研究所は移されていたのですね。

私達も安心しました。」

「TAKESHI さん、あなたに差し上げたいコードがあります。

このアンドロメダの遺伝子研究所では、脳神経の働きを中心として遺伝子コードを開発しています。

あなたの話では、アンドロメダ銀河のラボから、脳神経を活性化するためのコードをもらったようですが、おそらくこのコードは使用されていないと思います。

これは、皆さんのスピリチュアルな能力を司る松果体を活性化するためのコードですが、その取り扱いが難しいので、このコードは今まで使用されていませんでした。

しかしあなたのラボでは、この松果体を活性化するコードと未来のアンドロメダ・コードを一つに融合することができるかも知れません。

どうかこのコードを持って行ってください。」

私は、遺伝子ラボのリーダーにお礼を言って、松果体コードを受け取ります。

さて、明日は、ついに彼らがやってくる日です。

第2章 アンドロメダ銀河大戦争

○アンドロメダ銀河の襲撃に備えて

今夜の星のツアーは、アンドロメダ銀河が、デモニの襲撃される一日前にタイムトリップして、デモニの襲撃から、アンドロメダ銀河を救う物語です。

私達は、まずは、ユニバーサル・パレスの大きな会議場に入ります。

中央は、大きな円卓になっていて、この宇宙（ユニバース）の代表的なマスター達や神々、アシュタールのメンバー達が座って待っています。

私が席に着くと、会議が始まります。

まず、アンドロメダ銀河のリーダーであるアールスターからアンドロメダ銀河に向う船団の情報を説明してもらいます。

「大きな船団が、デモニと共に、アンドロメダ銀河の中心部に向かって進んでいます。

船団の通り道になった星々は、様々な武器により攻撃を受け、破壊されてしまった星もあります。

私達の艦隊も応戦しようとしたのですが、デモニの力により、宇宙船の計器類が狂わされ、相手に反撃するどころか、きちんと航行することも出来ません。

もちろん相手の船団に連絡を取ることも出来ません。

この船団の狙いは、アンドロメダ銀河の中心であるアールスター星といくつかの重要な星を破壊したり、その星の研究所にいる優秀な学者たちを誘拐することにあると思われま

す。彼等は大型の母船と中型の宇宙船、そして小型の宇宙船から成り立っており、様々なパターンの攻撃を仕掛けてきますので、私達も手の打ちようがなく困っております。」

そのあとアールスターからは、この船団が通ってきた航行ルートとそれに伴って破壊された星々の状況、船団の規模などが報告されました。

私達は、アンドロメダ銀河の中心的な星が襲撃され大きな被害が出る前に、彼等の攻撃を止めるためにはどうすればよいか話し合わなければなりません。

襲撃される前のアンドロメダ銀河の様子を見ていきます。

デモニの艦隊は、いまどのような状態ですか？と尋ねると、アールスターが答えます。

「中型の宇宙船が、3隻、その後ろに大きな母船が控えています。

そして、その更に後ろに、デモニが存在しています。

このデモニは、今迄存在していた物に比べても各段に大きくその正体はつかめません。

そしてデモニと、宇宙船が協力してアンドロメダ銀河を攻めてきた事が、私達にはリカできないことです。」

私は、彼等が準備してくれた映像を見て驚きました。

こんなに大きな宇宙船があるとは、予想外です。

宇宙警備隊にも作戦を相談しますが、宇宙警備隊といえども、この大型母船には、手が出せない程の巨大な宇宙船だと話しています。

「TAKESHI さん、この大型の母船は少し厄介ですね。
攻撃力もかなり高そうですし、正面から攻撃を行っても、私達の宇宙船が撃墜される可能性の方が大きいと思います。
しかも、後ろにデモニが控えていますので、宇宙船のシステムも停止する恐れも十分にあります。
そうすると、私達はただ攻撃されるだけで全滅してしまうでしょう。」

「そうですね、これは大型の母船と中型の母船の時間を一気に止めて、一度に処理するほうがよさそうですが、彼らを一度に止めるだけの魔法使いを準備しないと行けませんね、それからどの宇宙船がどこに向っているかを把握して待ち伏せする必要もありますので、彼らの目的地も特定しないとイケないのですが、アールスターよ、あなたは、その目的地がわかりますか？」

「TAKESHI さん、中型の船団の中でも、最大なものは、間違いなくアールスター星に向っています。
後は遺伝子工学の星と資源が豊かなフェアリーの星でしょう。
そして私達の宇宙工学の研究所を持つ星も、彼等は視野に入れているかもしれません。
もしかしたら、大型の母船がアールスター星を攻撃し、他の中型宇宙船が、いくつかの研究所を同時に襲う可能性もあります。」
私達は、再度ユニバーサル・パレスの巨大モニターでアンドロメダの各星の様子とそこに向っている宇宙船団の様子を確認します。

私は、アールスター星や遺伝子工学や宇宙工学の研究所を持つ星が攻撃されたことを考えて、この星に残っているマスターや女神はいますか？と尋ねると、アールスターが答えます。
「まだ、アンドロメダ銀河のアールスター星に、とても大切な場所を守っていて、離れられずにいるマスターたちが、数人いるようです。」と伝えてくれました。

私は、魔法使いたちを呼んで、この場所が襲撃されたとしても、侵略者達に見つからないようにシールドを張ってもらうことにしました。
これで、ここのマスター達も、少しは安全に守ることができます。

そして、3つに分かれた中型の宇宙船団と大型の宇宙母船の時を同時に止めてもらっている間に、船に潜入し、デモニに操られている乗組員を助け出すことになりました。
アンドロメダ銀河のアールスターとイエスのグループそして宇宙警備隊は、中型の宇宙船団を担当します。
大型母船には、私とアシュタールのグループ、天の川銀河連合の騎士団が入ることになりました。

船に潜入して行うことは、乗組員たちに埋め込まれているマイクロチップのようなものを、時間をかけずに素早く抜き取り、本来の彼らの正気に戻すことです。
彼らは、このチップを埋め込まれることで、記憶をなくし、デモニの思うままに操られている状態なのです。

私は、この作戦に加わるメンバーたちに話します。
「今回、アンドロメダ銀河の破滅を防ぐために、私達はアンドロメダ銀河を攻撃してくる宇宙船団の各宇宙船に侵入します。
そして、皆さんにも、協力してもらい宇宙船にいるたくさんの乗組員たちのマイクロチップを抜いていただ

きたいのです。

マイクロチップの抜き方を、まず「宇宙の魔法使い」から、教えていただきましょう。」

「宇宙の魔法使い」が、やり方をモニター画面を通して見せてくださいます。

「それでは、首の後ろの脳に近いところにそのチップはありますので、そのチップを抜いてください。」

今回の作戦に参加するメンバー達は、チップの抜き方を真剣に学んだ後、配置につきます。

しかし、私にはまだ気がかりなことが残されています。

それは、船団の後ろに控える「デモニ」の存在です。

「デモニ」とは、叡智ある存在達が発するネガティブなエネルギーを吸収して大きくなったエネルギー体で、通常のエネルギーや電力を奪ったり、宇宙船や都市の建物や交通などの機能を混乱させる働きがあります。

たとえ船団の時間を止めたとしても、このデモニの動き次第では、自分たちの宇宙船もパワーを奪われて、動きが取れなくなります。

そうすると、相手の宇宙船団だけでなく自分たちの宇宙船まで大きな被害を受けたり操縦が不能になったりしてしまいます。

私は、このデモニの動きを抑えるために、かつてプレアディス星団で、私達と共に、プレアディス星団に襲った「デモニ」の動きを止め処理した経験のあるプレアディスの魔法使い5人組に手伝ってもらおう事にしました。

PART2 宇宙船団の攻撃を止める

遂にその時が来ました。

アンドロメダ銀河に侵攻してきた宇宙船団とデモニは、いくつかの星を破壊しながら、目的の星の近くにまでやってきたのです。

私達は、アンドロメダ銀河の未来をかけて、この大型母船の船団とデモニ達に挑むことになりました。

おそらく数時間後には、彼等は目的の星の近くに到達して、星の破壊を始めることでしょう。

私達は、すでに星に住む人々を近くに止めてあるユニバーサル・パレスの仲間たちの船や近くの惑星に避難させていますが、彼等を食い止めなければ、彼らはやがて、無人の惑星を攻撃していたことに気づき、惑星の人々が避難している惑星や宇宙船を探し出すことでしょう。

私達は、まず魔法使い達に時を止める準備をしてもらいました。

自分達の魔法が通じる範囲に入った時を見計らって魔法をかけていきます。

最初に動いたのは、3万年後のプレアディス星団から来た5人の魔法使いです。

ユニ、ソン、オン、カルナ、サチの5人組は、前回もプレアディスを襲ってきたデモニの時間を止めていますが、今回はそれ以上に大きく強力です。

彼等も、5人の意識を集中して魔法をかけています。

次に大型母船の時を止めるために、この宇宙最大の魔法使いである宇宙の魔法使いと創造主エンソフの一部

であるエンソフの魔法使いが魔法をかけ始めました。

続いて3隻の中型宇宙船には、セントジャーメインとマーリン、そして南十字星の創造主であり魔法使いでもあるガンダルフが魔法をかけ時を止めています。

周りにある小型船は、カラス座の魔法学校の先生達や天の川銀河の各星座で活躍する魔法使い達が手助けをしてくれています。

宇宙船の時間はすぐに止まりましたが、私達は、5人の魔法使いによってデモニの時間が止まるのを待っています。

最初に、デモニの動きを封じないと、私達が宇宙船で近づいても動けなくなる可能性があるからです。

ようやくデモニの動きが止まり始めたようです。

大天使のラジエル達がデモニの上に回り込み、デモニに光のマカバを作るための神聖幾何学を描いています。

他の魔法使い達も、デモニの上に光のマカバの神聖幾何学を描き、デモニを光のマカバの中に閉じ込めます。

ようやくデモニの時間が止まったようです、デモニも動かなくなりました。

5人の魔法使いと大天使は、デモニを覆った光のマカバをつかってデモニの浄化に入ります。

私は、太陽神アメンラーと愛の女神ラメールもデモニのエネルギーを浄化するために、ここにきてもらうようお願いします。

更に、光、虹、変容の三大ドラゴンと、火、水、風のドラゴンも呼び寄せました。

ドラゴンたちに、デモニを囲み、デモニのネガティブエネルギーを小さくするように伝えます

また私達の仲間のドラゴンや高次元のシェンロン達もたくさんやってきて光のマカバの周りを旋回しながら、デモニにエネルギーを送っています。

さあ、いよいよ作戦をスタートする時がやってきました。

それぞれのメンバー達が、任務を遂行するために、宇宙船に乗って、自分達が担当する敵の宇宙船に向かいます。

アンドロメダ銀河のアールスターとイエスのグループそして宇宙警備隊は、中型の宇宙船団に、それぞれの仲間達を引き連れて入って行きます。

大型母船には、私とアシュタールのグループ、天の川銀河連合の騎士団が入ることになりました。

アシュタールのグループは、このような状況を何度も経験しているようですのでとても慣れています。

騎士団達をいくつかのグループに分けて、アシュタールのメンバーをリーダーにして、大型母船の各場所へ移動していきます。

私達も、動きがとめられた宇宙船の乗組員たちの首につけられた遺伝子チップを外しながら進みます。

私達が目指すのは船の操縦を行っているブリッジです。

アシュタールのメンバーは、事前にこの船を探索していたらしく、船の見取り図のようなものを手にして進んでいきます。

彼等にとっても、これだけの大型母船に遭遇することは珍しく、船がどのような構造になっているのか、気になるようです。

私達は、いくつかの通路やエレベーターなどを通りながら、母船の中を進んでいきます。

やがて、操縦席やコンピューターの操作をするような座席がいくつかある大きな部屋へと入って行きました。

その中央近くには、この宇宙船の司令官と思われる人がいます。

もちろん何かの指示を出しているようですが、彼の時も止まり、手を挙げて話をしている状態で、時間が止まっています。

私達は、この司令官のマイクロチップを抜き、時を戻すことにしました。

出来るならば、正気に戻して、アンドロメダ銀河の星々への攻撃を止めてもらおうと考えています。

私達に同行している宇宙の魔法使いが、彼の時間を動かしはじめました。

彼らは、マイクロチップを誰かに埋め込まれ、操られていただけで本当は叡智ある存在なのです。

私達は、彼等にマイクロチップが埋め込まれ、誰かの意識の操作を受け、自分の意思とは異なる事を行なおうとしていたことに気づいてもらおうとしました。

マイクロチップを抜かれた、司令官は横に見慣れない者達が立っていることに驚いています。

そして、私達に銃を向けようとしたのですが、アシュタールのメンバーによって取り押さえられました。

PART3 操られていた司令官

私は司令官に話しかけます。

「偉大なる司令官、私達はあなた方が、デモ二と共にアンドロメダ銀河の星々を破壊しながら進行し、これからアンドロメダ銀河のもっとも重要な星々を攻撃し、大切な科学者たちを誘拐しようという計画を阻止するためにやってきました。」

すると司令官は不思議そうな顔をして答えます。

「私達は、この宇宙の平和のために働いています。

未だ発展途上の星の人々を支援したり、人々が住む星で異変が起きた時に人々を助けたり、惑星レベルの自然災害から惑星を守ることが、私達の使命ですので、アンドロメダ銀河の星々を攻撃することなどありません。」

「司令官、私達は、皆さんの本来の使命はその様な尊い使命であると考えています。

しかし、皆さんはこのマイクロチップによって、自分の意思を失い、誰かによってコントロールされていたのです。

どうか、現在皆さんが行なおうとしていることや自分達が今までに行ってきたことを調べてください。」

司令官は、船のスクリーンを写し出し、船の行動記録を調べています。

司令官の顔が驚愕の顔に変わりました。

自分達の大型母船を中心に中型宇宙船や小型宇宙船が今にも、アンドロメダ銀河の星々を攻撃する瞬間であったことが分かったからです。

この宇宙船のモニターには、アンドロメダに向かって、ミサイルを発射しようと、射程距離を今まさに定めているところが映し出されています。

自分達が乗っている母船にも、今までなかった武装兵器がたくさん積まれていますし、それをかなり使用し

た形跡もあります。

司令官は、今迄の航行記録から、無断でアンドロメダ銀河に侵攻し、途中にあった多くの星を強力な武器で破壊していったことも知りました。

そして、これからアンドロメダ銀河の重要な星から、遺伝子工学や宇宙工学に関する重要な情報を盗み出し、アンドロメダ銀河の星々を壊滅させる計画を、まさに自分達が遂行している事も知りました。

司令官は苦悶の表情を見せて言いました。

「私達が、何故このような事をしているのか、私にはわかりません。

この宇宙船には、本来なかった武器がたくさん装備され、多くの星を破壊した事が記録にあります。私には一切覚えがないのです。

誰がこのような事をしたのですか、私に教えてください。」

「あなたは、このマイクロチップによって誰かに操られていたのです。

あなただけでなくこの船の全員に、マイクロチップがつけられ、全員が操られていたのでしょう。

それは、あなたの船だけでなく、あなたと共に行動している中型宇宙船や小型宇宙船もそうです。

皆さんが、自分の意思とは異なる行動をしているのです。」

「誰が、私達を操っているのですか。

これほど恐ろしい事を、誰が計画したのですか。」

私は、この船のスクリーンに、大型母船の後ろにあるデモニの映像を映し出しました。

司令官は驚いて「この不気味な存在は一体なんですか」と叫びました。

「これは、私達がデモニと呼んでいる存在です。

元々は純粋なエネルギー体なのですが、人々のネガティブな感情や思考を受け取るうちに大きな闇のエネルギーとなってしまいました。

このデモニに襲われると、ほとんどの宇宙船や機械の機能は停止して動かなくなりますし、このデモニに飲み込まれるとほとんどの生命は死に絶えてしまいます。

デモニによって潰滅させられた星々もたくさんあるようです。」

「このような恐ろしい存在があるとは私達も知りませんでした。

しかし、あなたは、このデモニに襲われると宇宙船も動かなくなるといいましたが、私達の宇宙船は動いていたようです。

それはどうしてですか。」

「あなた方の宇宙船は、もうすでにデモニと同調して、デモニの部下として動いていたからです。

皆さんは、すでに殺戮者としての狂気に巻き込まれ、多くの星をデモニと共に破壊してきたのです。

しかし、それもこのマイクロチップのせいによるものですから、皆さん自身には罪はありません。」

司令官は、私の言葉を聴いて少し安心したようですが、今迄に行った事への罪の意識が押し寄せてきたようです。

「私は、一体どうしたらいいのでしょうか。

私はたとえコントロールされていたとしても、多くの星を破壊し人々を殺してしまったことに対する罪をあ

がなわなければなりません。」

司令官は、床に膝き涙を流しました。

「司令官、あなたの気持ちは理解できますが、其れよりもこの事態を即急に解決しなければなりません。」

私達は、他の部隊と連絡して、宇宙船の乗務員から、マイクロチップが抜き取られたか確認します。

するとほとんどのグループで処理を終わり、私達からの指示を待っているようです。

私は大型宇宙船の司令官にお願いして全ての宇宙船に司令官の指示を出してもらおう事にしました。

司令官は、うなずくと私達の指示を確認し、マイクに向かいました。

「私は司令官のナダッドです。

これから重要な話をしますので全員、私の話を聴いてください。

私達は、全員がマイクロチップを入れられ、誰かに操られていたようです。

私もここ最近の記憶がないのですが、船の航行記録や行動計画を見ると、アンドロメダ銀河に侵攻し多くの星々を破壊していました。

そして、今まさにアンドロメダ銀河のアルスター星を初めとする主要な星を攻撃する直前でした。

私は自分の意識が戻ると、私達が行ってきたことの恐ろしさに言葉も出ません。

皆さんも一緒だと思います。

私達を救い出してくれた方々の事を信頼し、彼等の指示に従おうと思います。

全宇宙船は、攻撃態勢を解除して速やかに、母船に戻ってきてください。」

PART4 アンドロメダ銀河の復興にむけて

司令官は、マイクを置くと椅子に座りこんでしまいました。

「それでは、司令官、私達はまだ行う事があります。

皆さんを操っていた存在を調べなければなりません。

司令官は、その存在と交信を行っていましたか。」

司令官は交信記録を調べましたが、自分達に支持を出していたような通信は見つかりません。

宇宙の魔法使いが、司令官のマイクロチップを調べ終わったようです。

「TAKESHI さん、これはまたしても黒のウイングのマイクロチップです。

おそらく彼が、このマイクロチップを使って直接司令官たちをコントロールしていたようです。」

どうやら、彼らをコントロールしていたのは、地球の魔法使いをコントロールして暴れさせていた黒ウイングの分身であるということがわかってきました。

かつて、黒のウイングの分身が人間のエゴと波長を合わせて、宇宙を支配しようとしていた時があったようです。

黒のウイングの分身は、未来ではもうすでに本来の黒のウイングとひとつになっていますが、この時代にさかのぼって、黒のウイングの分身を処理してもいいかどうか、創造主エンソフに尋ねました。

創造主エンソフは、私の前に現れて言いました。

「TAKESHI さん、そして皆さん、本当にご苦労さまでした。

これでアンドロメダ銀河の重要は星が攻撃されてアンドロメダ銀河が崩壊する危険は去りました。

見事な処理であったと思います。

黒のウイングの分身に関しては、皆さんのお気持ちはよくわかりますが、この時点で黒のウイングの分身を消し去ることはできません。

彼の働きによって多くの学びをしなければならない人達がたくさんいるからです。

しかし、破壊された星々を復興することは許されています。

私達も協力しますので、破壊された星々の救援を行ってあげてください。」

それを聴いていた司令官は、私の方を向いてしっかりとした言葉で話しかけてきます。

「破壊された星々を復興することをどうか私達も手伝わせてください。

私達の船団は元々そのような目的のために作られました。

しかも、それらの星々は、私達が破壊したものですから、私達が復興する責任があります。

たとえ、何年、いえ何十年かかろうとも、星の人々に謝罪して復興の務めを果たすことが、私達にできる唯一の罪滅ぼしです。

どうか、私達にもアンドロメダ銀河の復興を手伝わせてください。」

司令官の話聴いていた船の乗務員も全員立ち上がり、司令官のもとに集まり、自分達は司令官と気持ちが一つであることを伝えてきます。

乗務員たちの瞳が涙にあふれキラキラと輝いています。

私は、アンドロメダ銀河の代表であるアールスターに連絡を取り、司令官の意思を伝えます。

アールスターは、司令官の申し出をととても喜んでいるようです。

「司令官よ、アンドロメダ銀河のマスターは、皆さんの申し出を快く受けるそうです。

先ずは、アールスター星に来て、船の装備を武器から復興用の機械に入れ替えるといいと思います。

其れから、ひとつお尋ねしますが、皆さんは元々、どこの星系に属しているのですか？」

「申し遅れました、私達はオリオン星系の評議会に属する船団で、各星系の友好や復興のために活動しております。

私は司令官のナダッドです。

中型宇宙船も小型宇宙船もすべて同じ評議会に属し、一緒に行動しています。」

私は、オリオン星雲のマスターを呼んで事情を訊ねてみることにしました。

ユニバーサル・パレスに属しているオリオン星雲のマスターがやってきてくれました。

彼は、司令官と宇宙船を見るととても喜んだ表情を見せてくれます。

「この船団は、私達オリオン星雲の誇りともいえる船団で、これ以上の船団はありません。

彼等は、アンドロメダ銀河や他の星系との、友好関係を築くためにこの船団を派遣したのですが、行方不明になっていたのです。

私達は、彼等と連絡が取れなくなったために、大変失望していました。

彼等ほどの船団を作る事は、ほとんど不可能に近い事だったからです。

彼等と再び会えるとは思いませんでした。」

オリオン星雲のマスターは少し沈黙しています。

「しかし、彼等が行ってきた事は、たとえ他の者に操作されていたとしても許されないことです。この船団だけでなく、オリオン星雲の評議会も出来る限りの罪滅ぼしをしたいと思っています。私達にできることを、これから評議会に戻って相談しますので、必要な事があつたら何でもおっしゃってください。」

船団の司令官が、オリオン星雲のマスターに向かって言います。

「マスターよ、私は船団の司令官としてお願いがあります。私と私の船団は、私達によって破壊されたアンドロメダ銀河の星々の復興を行いたいと考えています。それが何年、いえ何十年かかろうとも、復興をやり遂げたいのですが、オリオン星雲の評議会の許可をいただけないでしょうか。」

「司令官よ、あなたがそのように決意したのなら、それがあなたの船団の意思です。私達にとっては、一度は失われた船団ですので、誰も反対する人はいないでしょう。どうか、力の限り働いて、私達とアンドロメダ銀河の友好を取り戻してください。私達も、代わりの乗務員を派遣したり、支援物質を送るなどのサポートをしますからよろしくお願いします。」

オリオン星雲のマスターはそのように言うと、私達に深く礼をして、去って行きました。きっとオリオン星雲の評議会でも、今回の事を報告し、船団に対する支援やアンドロメダ銀河の星々の復興に関するサポートを話し合ってくれることでしょう。

私達は、一度アールスター星に戻り、このオリオン星雲の船団の武器を復興のための機械に変えている間に、どのような方法で復興を行うか話し合う事になりました。復興に関しては、アンドロメダ銀河のマスター達とこの船団によって行われることでしょう。避難していた星の人々も、元の星に続々と戻ってきているようです。私達は、デモニの処理にかかる事にしました。

デモニは、あらかじめ光のマカバを作って光を送り込んでくれたことにより、そのエネルギーはずいぶん小さくなってきているようです。たくさんの魔法使い達によって、光のマカバでデモニを包み込んでいる光景が見えています。そして、さらに様々なドラゴンたちが、多彩な光りを放って、このエネルギーを浄化していきます。アメンラー達も愛の光を送る事で、デモニの黒々とした闇が晴れてきています。

宇宙警備隊は、このデモニの雲のようなエネルギーがなくなると、中心部の核になっているものに対して働きかけを行うようです。この核は、宇宙の創造エネルギーなのですが、マイナスのエネルギーの影響を受けてしまうことがありますので、この核を、宇宙警備隊は、幽閉するために運んでいきます。この核を幽閉するのは、必要なエネルギーだからです。その先でまた循環させて、また宇宙の創造エネルギーに還っていくのです。あとは、時が必要ですので、時にまかせることにしましょう。

第3章 オリオン星雲の魔法使い達

PART1 オリオン星雲のライトコードを求めて

星のツアーの朝のクラスは、夜のクラスがアンドロメダ銀河を担当している間に、オリオン星雲へと向かうことになりました。

オリオン星雲は、私達の天の川銀河と関係のある外銀河では、アンドロメダ銀河と並んでとても重要な役目を持っています。

地球に新たな叡智を持った人類を育てる計画が立てられた時、最初にその事を指導したのは、アンドロメダ銀河とオリオン星雲のマスター達でした。

勿論すべてがうまく行ったわけではありませんが、この地球の初期の文明や人類たちの進化に関して、この2つの星団のマスター達がいなければ、今の地球の人類の進化はありえなかったと思います。

また、私達が完全なる種族である太陽人種への進化を行うにあたって、オリオン星雲には、とても重要なライトコードが2つあるといわれています。

その一つが、オリオンコードと呼ばれるもので、スピリチュアルなレベルでの光を物質化し、物理世界を作り上げていくためのコードで、エレメントの力を使いこなすための能力が秘められています。

そしてもう一つは、タイムライン・コードと呼ばれるもので、新しく創造された世界に時間をもたらし、その世界（星）や生命の育成や進化を行うための状況を創り出すためのライトコードです。

またこれらのコードを持つことによって、やがて人類が宇宙を創造したり時間と空間を自由に旅することができるようになるようです。

オリオン星雲は、他の銀河や星々と比べても独特の世界を持っています。

私達になじみ深いフェアリーやペガサス、ユニコーン達もとても進化していますし、4大エレメントに関するとても大きな働きを持つ星々もあります。

しかし、オリオン星雲の中でも争いも絶えないようです。

私達が以前、オリオン星雲に呼ばれていった時も、エレメントの星を巡る争いを解決するためでした。

オリオン星雲のグループが2つに分かれて、星の奪い合いをしているような状況に直面させられたのです。

さて今回は、いったいどのような旅になるのでしょうか。

私達は、ユニバーサル・パレスにオリオン星雲のマスターを呼び出します。

オリオン星雲のマスターが私達の元に降り立ちます。

とても気品のある雰囲気でもいかにも叡智が高いマスターであることがわかります。

「オリオンのマスターよ、よくやってきてくれました。

私達は、オリオン星雲にあるライトコードを探し求めるために、オリオン星雲へと行こうと思っていますが、あなたはオリオン星雲のライトコードについて詳しいことをご存知でしょうか。」

「TAKESHI さん、そしてユニバーサル・パレスの皆さん、お会いできて光栄です。
オリオン星雲のライトコードの事は、私達もよく知っております。
皆さんが、これから目指しておられる太陽種族の進化のためには、なくてはならないライトコードです。
しかし、そのライトコードを手に入れるためには、解決しなければならない問題があります。」

マスターは何か言いたげですが、言葉に詰まっています。

「マスターよ、ライトコードを得るためには、今までもいくつもの困難なことを乗り越えてきました。
何が問題なのか、遠慮なく話してください。」

「そうですか、あなたがそう言うのであれば、私達も話しやすいので助かります。
実は、現在オリオン星雲は、沢山の魔法使い達によって攻撃を受けているのです。
魔法使い達が、いつの頃からか、とても乱暴になり、星々を攻撃したり、ドラゴン等を捕えたりして、オリオン星雲の平和がかき乱されているのです。
ライトコードを持つ遺伝子工学研究所も、彼らの標的になりましたので、私達はその研究所を守るために、全力でシールドを張りガードしているのですが、大変危険な状態です。
魔法使い達は、いくつかの星を攻撃し、その星を支配しています。
その状態が、これからも拡大していけば、遺伝子工学研究所も奪われてしまうかもしれません。」

「マスターよ、それはとても危険な状態ですね。
すぐにでも行って対策を講じましょう。
天の川銀河の騎士団やマスターそして魔法使い達よ、すぐに準備してください。
そしてユニバース・パレスの魔法使い達よ、できる限り私達と同行して力を貸してください。
フェニックス号で、私達は出発しますので、準備ができたらずぐに乗り込んでください。」
私が、そのようにお願いすると、フェニックス号に次々と騎士団や魔法使い達が乗り込んでいきます。
私は、ゴッド・オリジンのお願いして、私達のライトコード・ラボの設備も船に積み込みます。

PART2 オリオン星雲のフェアリーの星

私達はオリオン星雲に向かって出発しました。
船の中で、オリオン星雲のマスターと話をしているうちに、もう一つ大切なことがわかりました。
それは、闇に落ちた魔法使い達の中で、数名の魔法使い達が正気に戻りつつあるということです。
おそらく遺伝子チップなどの方法でマインドコントロールを受けていたのでしょうか、そのコントロールが外れて、自分たちの行いを反省している魔法使い達がいるので、彼らも救いだしてほしいとのことでした。

私達は、オリオン星雲の中にある一つの星にたどり着きました。
ここは、以前私達が、ドラゴンやフェアリー達の救出のために来たことがある星です。
オリオン星雲の中でも中心的な星だったのですが、大切なドラゴンが傷つけられ、フェアリーの世界も闇に沈んでいました。
私達は以前ここに来てドラゴンを救いだし、フェアリーの世界に光をもたらしたのです。

私達は、星の状況を確認するために、星の内部にあるクリスタルドームに入っていました。

この地底の世界から、オリオン星雲のフェアリーワールドに通じる通路があるのです。

私たちは、通路を通してフェアリーの世界に入っていました。

とても美しい樹木や花たちが咲き乱れ、小さな昆虫や蝶たちが舞っています。

私達が入っていくと、すぐに沢山のフェアリー達やホビット達が集まってきます。

彼らはとても純粋な瞳をしていて喜びに満ち溢れています。

私達のメンバーの中にも、フェアリー系の魂を持つ人がたくさんいるので、皆さんフェアリー達とすぐに仲良しになって喜んでいきます。

森の奥から、フェアリーの女神が現れ、私達を歓迎してくれます。

「TAKESHI さんや皆さんに再びお会いできてとてもうれしく思います。

私達は、皆さんによって素晴らしい世界を取り戻すことができました。

ここにいるフェアリーやホビット達は、皆さんの助けによって、再び楽しく暮らすことができるようになったのです。

皆さんが、再びこの世界に訪れてくださるなんてとても夢のようです。」

「フェアリーの女神よ、私達こそ、皆さんが、これほど素晴らしい世界を創ってくださったことに感謝したいと思います。

オリオン星雲のマスターから、オリオン星雲のいくつかの星が攻撃されたと聞いて心配しておりましたが、この場所が無事で良かったです。」

私が、女神に挨拶をすると女神の顔が少し曇ります。

「オリオン星雲のマスターや騎士団の方がこの星を一生懸命に守って下さっていますので、今のところは無事なのですが、魔法使い達は思いがけない方法で攻撃してきます。

私達もいつも祈り続けているのですが、本当のところとても不安です。

でも TAKESHI さん達が、来てくださったので安心です。」

女神達は、私達が来ることを待ち望んでいたようですが、オリオン星雲の状況は、私達が思っていたよりも悪そうです。

「女神よ、私達も出来る限りのことをして皆さんお事をお守りしたいと思っています。

それでは一度地上に戻って対策を練りましょう。」

私達は、このフェアリーの世界の安全を確認すると地上に戻ってきました。

PART3 黒のウイングと魔法使い達

私達が、地上に戻ると、間に落ちた魔法使い達の問題に取り組んでいるマスター達が、会議室にそろって待っています。

彼らと今回の対策について話し合います。

「オリオン星雲の偉大なるマスター達よ、初めまして。

私達は、皆さんと共に、オリオン星雲の平和を守るために活動したいと思いますのでよろしくお願いします。」

オリオン星雲のマスターの代表者のような方が、立ち上がり私達に感謝の言葉を述べています。」

「TAKESHI さんやユニバーサル・パレスの皆さんが、ここに来てくださったことを、私達は深く感謝します。これで私達も未来に希望が持てます。」

「それでは、まず闇の落ちた魔法使いの事についていくつか確認したいことがあります。一つは、闇におちた魔法使いの現在の状況はどうなっていますか、そして彼らをコントロールしているのは誰ですか。もう一つ、正気に戻りつつある魔法使いの様子も教えてください。」

まだ若い一人のリーダーが立ち上がり話始めます。

「現在、闇に落ちた魔法使い達は、いくつかの星に入り込んでいます。彼ら自身は、武力を持ちませんから、様々なものに姿を変えて、その星を統治しているマスターを罠にかけ、彼らをコントロールするようにして、その星を自分たちの物としているようです。またいくつかの星の騎士団たちも、少ないながら彼らに従っている者達もいるようです。彼等は、現在皆さん達がオリオン星雲に入ることも予測して、対策を練っているようです。彼らをコントロールしている存在に関しては、大きな黒い羽を持った存在に会った事があるという情報も寄せられています。」

魔法使いのような姿をしたメンバーもいて、彼は正気に戻り始めた魔法使い達と交流があるようです。

「私が知る限りでは、数名の魔法使い達が、自分の理性を取り戻しつつあります。彼らは、理性が戻ると自分達が行ってきたことを教えられ、とても深い後悔の念に捕らわれているようです。しかし、彼らも、自分の気持ちが落ち着かないのか、まだ混乱しているようです。」

「皆さんありがとうございます。さて皆さんの情報の中で、黒い羽を持った存在、という言葉が出てきました。おそらくそれは黒のウイングではないかと思えます。私達が、地球の中で、闇に落ちた魔法使いを救出するときに、多くの魔法使いの首のところに、遺伝子やその人の意識を操る遺伝子チップが埋められていることを発見しました。そしてその遺伝子チップを埋め込んだ存在を探しているときに、私達の宇宙の魔法使いが、黒い翼を持つウイングを見つけ出したのです。ウイングというのは、天使達の元となった存在で、人類はもちろん皆さんのようなマスターや大天使、そして魔法使い達をはるかに超える能力とパワーを持っています。そのウイングが、起こしたことだと思われそうです。」

メンバーの一人が私に尋ねます。

「ウイングと呼ばれる存在は、天使達の元となった存在であるならば、他の生命に危害を加えたり、自分勝手な欲望や行動を起こさないはずなのですが、なぜこのようなことをしたのですか。」

「もちろんそうです。もともと黒のウイングはこの宇宙でも、もっとも大切な仕事の一つを担当していました。それは、この宇宙の創造に必要な光のエネルギーと闇のエネルギーの働きを調整する事や、ネガティブな感情や意識によって汚されてしまったエネルギーをきれいなエネルギーに浄化して再生するための仕事です。黒のウイングは、その仕事を自らの分身にさせていたのですが、その分身がネガティブな感情に飲み込まれてしまい理性を失ってしまったのです。」

その結果、支配欲に取りつかれ、多くの魔法使いやマスター達を虜にしてみました。
地球の魔法使い達もそうですが、オリオン星雲の魔法使い達も、黒のウイングの分身によって理性を奪われコントロールされているのです。
それは、魔法使いだけでなく、過去の時代にオリオン星雲の優秀な宇宙船の艦隊も、彼にとらえられてしまい、アンドロメダ銀河を襲うこととなったのです。」

会議に集まったメンバーから、大きなため息やざわめきが聞こえます。

「TAKESHI さん、あなたの話では、相手はかなり強力なパワーと高い叡智を持っているようですが、そのような相手に私達が立ち向かえるのでしょうか。」

会議の参加者たちに多くの不安と恐れが広がる様子が伝わってきます。

「でも皆さん、心配しないでください。

その黒のウイングの分身はもうすでにこの世に存在していません。

私達が、彼を捕えると、彼の元となった黒のウイングが現れて、その分身を自分の中に取り込んでいきました。

黒のウイングも、自分の分身が、様々な悲劇を創りだした事を深く謝罪していましたので大丈夫です。
分身がいなくなって、彼のコントロールを行う力がなくなってきたので、数名の魔法使いが、彼のコントロールから逃れ、理性を取り戻し始めたのではないのでしょうか。」

オリオン星雲のマスター達の表情が、一瞬にして安どと喜びの表情に変わります。

「TAKESHI さん、それはよかった。

私達だけでなく、この宇宙のすべてのマスターや種族達が皆さんに感謝すると思います。

本当にありがとうございます。

それでは、他の魔法使い達も、やがて理性を取り戻すのですね。」

「それは難しいかもしれません。

黒のウイングの分身はいなくなったとしても、魔法使い達に入れられた遺伝子チップは、その機能を止めたわけではありませんし、魔法使い自身が持つ欲望そのものが、すでに遺伝子チップと一つになっていますから、これからは、彼らの意思と欲望によって同じことを繰り返し続ける可能性もあります。」

オリオン星雲のマスター達の表情から、安堵と喜びの表情が消え、困惑の表情に変わります。

「マスターよ、がっかりさせて申し訳ありません。

でも心配しないでください。

闇に落ちた魔法使い達も、その遺伝子チップさえ抜いてしまえば正気に戻りますから、助けることは不可能ではありません。

それでは、最初に正気に戻りつつある魔法使い達を先に救出して、魔法使いの仲間を増やしましょう。」

PART4 魔法使いの学校の校長先生

私達は、オリオンのマスター達に、地球の魔法使い達を、助け出した時の話をしてあげると、オリオン星雲

のマスター達は大喜びです。

そして、このオリオン星雲の魔法使い達を助けるための具体的な方法について話始めます。

「ここに魔法使いのマスターが一人いらっしゃいますが、正気に戻りつつある魔法使いを先に救出したいのですが、何か良い案はありませんか？」

オリオンの魔法使いマスターの一人が困ったような顔をして答えます。

「う～～ん、私には、良い策は見つからないのだが、そのうちの何人かは知っています。」

「それは大切なことです。たとえば誰の事をご存知ですか。」

「私の古くからの友人で、オリオン星雲の魔法学校の校長先生をしているものです。」

私達は、仲が良くいつも一緒に、魔法についての話や若い魔法使い達を育てるための方法などについて、よく話し合っていました。

ところが、彼と突然連絡が取れなくなったのです。

私が心配して、魔法の学校に行ってみると、先生も生徒も誰もおらず、学校は荒れはてていました。

それからというもの、彼に関する悪い噂ばかりが耳に入ってきて、私はつらい思いをしておりましたが、つい先日、彼からかすかなテレパシーのようなものを感じたのです。

そこから、私は、彼の苦しみや悔恨の感情を強く感じるのですが、どうしようもできないのです。」

私は、魔法使いマスターの元に歩み寄ると彼を慰めるように言います。

「それは、とても辛い思いをしましたね。」

魔法学校の校長先生はさぞかし立派な人だったに違いありません。

遺伝子チップなどによってコントロールを受けると、多くのマスターや魔法使い達が、自分の高次のエネルギーを維持することができずに、下の次元に落ちていってしまいます。

そうすると皆さんとは、次元が異なってくるので接触できなくなります。

しかし、私がいれば、いくつもの次元を超えることができますので、そのような魔法使い達も探し出して助けることができます。」

私の話を聞いた魔法使いのマスターはとても嬉しそうです。

私は「宇宙の魔法使い」や一緒に来ている魔法使い達に、この魔法使いのマスターに寄せられた魔法学校の校長のテレパシーをたどって校長を見つけ出して、ここに連れてくるようお願いしました。

魔法使いのマスターに校長先生とのコンタクトを試みてもらいます。

多次元の空間を自由に移動できる私のエルギーを使用して、マスターのテレパシーをいくつもの次元に流していきます。

しばらくすると、マスターが顔をあげて、私達に合図を送ります。

魔法学校の校長先生からの反応があったようです。

魔法使い達は、テレパシーのつながりをもとに、他の次元へと入っていきます。

しばらくすると、魔法使い達が、憔悴しきった様子の魔法使いを一人、抱きかかえるようにして戻ってきました。

魔法使いのマスターは、彼の姿を見るなり、駆け寄って、彼を抱きかかえます。

マスターの腕に抱かれた校長先生も、マスターの顔をみて、うれしさのあまり涙を流しているようです。

私達は、しばらくその様子を眺めています。

皆の目にもキラリと涙が光ります。

私達は、魔法学校の校長先生の首のところに刺されていた遺伝子チップを取り除きました。
やはり、地球の魔法使い達に使用されていたチップとほとんど同じ構造ですので、これを仕掛けたのは、黒のウイングの分身であることに間違いのないようです。

「校長先生、私達は地球から来た TAKESHI と宇宙の光のメンバーです。

そして多くの星々のマスターや魔法使い達の連合グループです。

今回は、皆さん達を助けるためにやってきました。

でも大変でしたね。

通常は、この遺伝子チップの働きから逃れることはまず不可能なのですが、あなたの理性と正義心が、このチップの影響から解放していったのだと思います。

でも安心してください。

このチップを仕掛けた黒い羽を持つ存在はもういません。

校長先生の仲間の魔法使い達も、すぐに元に戻りますよ。」

校長先生は、私達の顔をずっと見つめています。

そして自分の中で張りつめていた気持ちが緩んだのか大きな声を出して泣き始めてしまいました。

「皆さん許してください。

私は自分の弱い心に負けてしまったのです。

もっと認めてもらいたい、もっと権力がほしいと願ったばかりに、悪魔に心を売ってしまったのです。」

「校長先生、もう過去の話はやめましょう。

それよりも早く仲間を救い出しに行きましょう。

あなたは仲間達へコンタクトができますか。」

「もちろんです、仲間達を少しでも早く救ってください。」

校長先生の頭からアンテナのような光が立ち上がり、そこから幾方向にもエネルギーが流れていきます。
いくつものエネルギーが異なる方向に流れていきますので、私は、魔法使いとマスター達にお願いして、その一つ一つのエネルギーを追いかけてもらいます。

PART5 戻ってきた魔法使い達

しばらくすると、エネルギーを追いかけていったマスター達が、一人また一人と戻ってきました。

そしてうれしいことに、オリオン星雲の魔法使い達を抱きかかえながら戻ってきてくれました。

魔法使い達が戻ってくるたびに、会議室には大きな歓声が広がります。

私達は、彼らに付けてある遺伝子チップを抜き取り、彼らのエネルギーを癒します。

フェニックス号に積んであった遺伝子の修正のための器械を、この会議室に降ろし、遺伝子の修復作業もおこなわなければなりません。

魔法使い達を救出にいったメンバー達がすべて戻ってきたようです。

おそらく 50 人近くの魔法使い達が救出されたようですが、その中には、魔法の学校の先生や生徒達もたくさん含まれているようです。

遺伝子チップが取り去られた後、彼らは自分達の事を思い出したようで、お互い抱き合っ泣いています。

宇宙の魔法使いが、彼らに静かに語りかけます。

「皆さん、皆さんが体験したことは、皆さんが立派な魔法使いになるために、とても大切なことでした。この宇宙の真理を見極め、宇宙の平和と宇宙に生きる多くの生命達の幸福を守ることが魔法使いの使命です。皆さんは今回の事を通して、その使命の尊さと素晴らしさを再び思いだして下さった事と思います。そして、私達魔法使い達が、常に最高度の理性と正義心を持って生きていく必要がある事も理解していただけたと思います。

私達は、これからさらに大きな仕事をしなければなりません。

まだ皆さんの仲間の魔法使いが、心を闇に蝕まれたまま存在しています。

彼らを助け出し、このオリオン星雲の平和を守ってください。

そして、再びオリオン星雲の魔法使いが、この宇宙に存在する魔法使い達の良き導き手となるように努力してください。」

宇宙の魔法使いはこのユニバース(宇宙)最高の魔法使いです。

全ての魔法使いの憧れといっても過言ではないでしょう。

彼の言葉に多くの魔法使い達が心を動かされたようで、ひときわ大きな鳴き声が響き渡ります。

そしてエンソフの魔法使いもそこに現れ、宇宙の魔法使いと共に、癒しの魔法をこの部屋に満たしていきます。

そのあまりにも美しい光景とエネルギーに、私達も涙を流しています。

やがて遺伝子の修復の準備が整ったようです。

ゴッド・オリジンやゴッデス・ダナ達が準備をしていますので 3 人ずつ遺伝子の修正にかかるようです。

私は、今回助けられたメンバーの中に、魔法学校の中心的な先生たちもいるようなので、彼らの遺伝子の修正と活性化を行います。

最初に魔法の学校の校長先生の活性化を行います。

やはり校長先生を務めるだけあってしっかりとしたウイザード・コードを持っていらっしゃいます。

次に校長先生のサポートを行う魔法使いです。

私は、この魔法使にとっても強いマスターのエネルギーを感じます。

多くの人達を教育し導いていくタイプの魔法使いです。

遺伝子の構造を見てもエンジェル・コードやフェアリー・コードが活性化しています。

私はこの魔法使いがさらにレベルの高いマスターとなるためにマスターコードを入れます。

マスターコードは、多くの人を導くためのパワーと責任感、そして無償の愛を高めるためのコードです。

次に、とても体が大きくパワーあふれる魔法使いです。

特に炎や水などのエレメントを用いて、自分達への攻撃を防いだりする防御系魔法が得意そうなタイプです。

彼の遺伝子構造は、エンジェルやフェアリー・コードは、あまり活性化していませんが、ドラゴンコードがとてもパワフルに輝いていて、4 大エレメントの力を使うことが上手なようです。

私は、彼に対しては、ドラゴン達を召喚したりドラゴン達の力を使えるように、マスタードラゴン・コード

を入れておきます。

4人目は背の高い細身の魔法使いです。

先ほどのパワフルな魔法使いとは正反対のタイプで、宇宙の真理や叡智を探求するのがお好きなようです。彼は、神聖幾何学を用いた理知的な魔法が担当のようです。

遺伝子コードを見ても、ドラゴンコードやフェアリー・コードは弱くエンジェル・コードが活性化しています。

そして頭頂部のところには、ウィザード・コードとつながった叡智のコードが輝いています。

彼は、大天使ラジエルとの関係が深い魔法使いなので、エンジェル・コードを強化していきます。

5人目は小柄な女性の魔法使いです。

優しい純粋な瞳がキラキラ輝いていて、背中にも美しい透明な羽がついているようです。

見るからにフェアリー系の魔法使いで、自然に対する魔法や癒しの魔法を得意とする魔法使いです。

彼女の遺伝子コードは、エンジェル・コードとフェアリー・コードが美しく輝いていますし、ドラゴンコードも活性化しています。

彼女の小さな体には、きっとすごいパワーが秘められているのではないかと思います。

私達は、魔法学校の校長先生と4人の先生の遺伝子の活性を終わると、傷ついた魔法使いの遺伝子の修復は、ゴッドオリジン達にまかせて、他の魔法使い達を助けるための話し合いを持ちました。

私達が、地球で行った魔法使い達を集めて時を止め、遺伝子コードを取り除く方法を、今回も使用することにしましたが、おそらく地球とは比べ物にならないくらいたくさんの魔法使い達がいるとおもわれますので、今回は、罫を4つに分けて作ることにしました。

罫に仕掛けるエネルギーは4つです。

権力と名誉、お金と快樂、愛、そして叡智です。

私達のメンバー達で光のマカバを創り、マカバを隠したうえで、その罫になるエネルギーを置きます。

そのエネルギーに、惹かれて魔法使い達が、集まってきたところで時を止めるのですが、一度地球で行っていますので、うまく行くかどうか心配ですが、準備にかかることにします。

オリオン星雲の魔法使い達はそれまで、ゆっくり休んでもらって、遺伝子の修復や心の傷の癒しを行います。

さて、オリオン星雲の魔法使いの救出、その結末は、来週の星のツアーで行われます。

第4章 オリオンコードと宇宙意識

PART1 宇宙の意識を表すマスター

私達は、オリオン星雲の魔法使いを助けに行くために、再びユニバーサル・パレスに入りました。パレスに入ると、いつもとまた雰囲気は誓っています。誰かが来ているのかと周りを見上げると、とても大きなパワフルな存在が私達の事を待っています。他のマスターが、本当に小さく見えるくらいの巨大なマスターです。私達の活動の大きな転換期には、このようなマスターがよく現れます。私は、葵さんに彼の言葉を伝えてくれるようお願いしました。

「私は、この宇宙の大いなる意思とでも呼ぶべき存在です。私は、様々な星団や星々の命と一つになり、それらを見守っています。私達は、とても大きな宇宙の意思なので、一つ一つの星々や種族達の活動に関わることはしませんが、宇宙の秩序が乱れるとき、大きな争いや破壊が行われるときには、私達が介入することもあります。私達のような大きな流れを持つ存在がいる事だけは覚えておいてください。私達は、皆さんの活動を見守り、そして、皆さんの事を守護しています。」

私も偉大なる存在に対して敬意を払って答えます。

「偉大なるマスターよ、初めてお会いします。あなた方のような素晴らしい存在にお会いできるだけでも光栄です。それで、あなたはどのような立場にいらっしゃいますか、私達はセントラル・レースによってこの宇宙は創造されたと聞きましたが？」

「そうです、セントラル・レースがこの複合的な宇宙を創造しました。しかし、セントラル・レースでさえも、まだ私達の一部です。私達が持つ宇宙の意識というものをスピリチュアルな世界や物理的な世界に光として現していくのがセントラル・レースの役目です。」

「私達がこれから行おうとしているライトボディやデバイン・ボディの事について何かメッセージがありますか。」

私は、マスターに私達が行おうとしていることに対して説明を行いました。

「あなた方が行おうとしていることは、私達にとっては、あまりにも小さすぎる点のようなものだが、皆さんが、そのことを誠実に行ってください。その点の力は強まり、この宇宙に良い影響を及ぼすことでしよう。」

私達は、常に皆さんの事を守り守護していますので、しっかりと行ってください。」

私達は、この大仏のようなマスターの光を分かち合ってください瞑想します。この時は、まだ、彼の事がよくわからなかったのですが、後になって、彼の偉大さがわかる事になっていきます。

PART2 天使のような魔法使い達

私達は、ユニバーサル・パレスからオリオン星雲に入ります。

前回助け出された魔法学校の校長先生や他の先生たちもとても元気です。

私達は、黒のウイングの分身によってコントロールされている魔法使いを助けるための準備に入ります。

前回、それらの魔法使い達を呼び寄せるために、彼らの好きそうなエネルギーを満たした光のマカバを準備しておいたのですが、その様子を探ねると、とても大きなマスターが私達の前に現れます。

彼は、4つのマカバではなくとても大きな一つのマカバのビジョンを見せてくれています。

そして、その中には、沢山の魔法使い達が、沢山います。

私が、オリオンの魔法使いはとても数が多いので4つのマカバに分けたことを話すと、マスターは、私達、地球人に特有の「分離の見方」に付いて話をしてくれます。

マスターは、4つのエネルギーに分離することなく、一つのエネルギーですべての魔法使いを助け出すことができることを教えてくれました。

私は、少し混乱しましたが、もうすでに大きなマカバの中にはたくさんの魔法使い達が、光を浴びて浄化されることを待っているようでした。

きっと、この偉大なマスターが、私達のやり方を変更して、すでに多くの魔法使い達を捕えていてくれたようです。

私が、マスターに魔法使いを助けるための光を放つことをお願いすると、そのマカバの中に、どんどん光が満ち溢れ、魔法使い達が統合の光と共にどんどん上に上がっていきます。

魔法使い達は、黒のウイングの分身から解き放たれ、どんどん自由になっていきます。

そして光のマカバの上の次元にある愛のドームの中に入り、癒されていきます。

愛のドームの中を見ると、一番上の光の中に4人の魔法使い達が見えます。

おそらくリーダー格の魔法使いなのでしょうか、とても威厳のある様子ですが、愛の光によって癒され安らいでいる様子は、まるで子供のようです。

他の魔法使い達も、まるで子供の用に癒されています。

元気になった魔法使い達は、愛のドームの中をまるでキューピッドのように飛び回っています。

私は、あまりにもあっけなく終わったことに対して、拍子抜けしてしまったのですが、それは反対に私達が何事に対しても理屈をつけ難く考えすぎているせいなのかもしれません。

私は、マスターに魔法使い達を解き放つようお願いしました。

沢山の魔法使い達が、愛のドームから空へと舞いあがっていきます。

オリオンの魔法使い達は、エネルギーレベルでみると、とてもかわいい天使のようです。

私達は、その後マスターからメッセージをいただきました。

「皆さんが、行ってくれていることはとても尊いことです。

しかし、皆さんは様々な分離を、自分の心の中に持っています。

今回の事も、皆さんに対して、宇宙の秩序が与えた学びです。

皆さんは、どんどん分離を超えて一つになっていってください。

皆さんは、思考が入ると分離が起きます。

思考すること自体は決して悪いことではありませんが、そこに統合の視野がないと、全ての事が分離に見えてきます。

皆さんが2足歩行を行い、より複雑な生活や社会を創りはじめたことによって、様々な知恵が生まれましたが、どんどんシンプルさも失っていきました。

どうか、知恵を持ってシンプルに生きてください。」

PART3 創造主としての特質を持つオリオンコード

私達は、オリオン星雲に来た理由をオリオンのマスターに告げます。

「実は、私達は自分達の遺伝子の進化のために、オリオン星雲に隠されている遺伝子を必要としています。」
マスターがにっこりと笑って手を挙げると、そこに黒い羽と白い羽を持った大きな天使が現れます。

「どうぞこちらをお持ちください。

これがオリオンコードと呼ばれるものです。

このコードは、別名ウイングコードとも呼ばれ、通常、星の世界に住む種族達は手にできないものです。

大天使を超えたウイング達によって守護され、必要な時にのみ与えられます。

このコードは、いくつもの特徴を持っています。

それは、ウイングや創造主にもつながる能力を生み出すことを可能にします。

オリオンコードの特質の一つは、時間と空間を超える能力を持つ事です。

この能力が目覚めてくると皆さんは、さらに自由に空間や時間を移動することができるようになります。

そして、スピリチュアルな世界にあるものを現実世界へ移し替えていく能力も目覚めてくることでしょう。

これは、皆さんがこれから新たな宇宙をセントラル・レースと共に作り上げていくためには必ず必要とされる能力です。

地球に住む皆さんの中には、そのような能力を持ち始めている人もいますが、そのような人達はかつて、創造主やウイング達と共に仕事をしていたことがある方達なのです。

そして、統合のコードと呼ばれるオリオンのコードの大切な目的は「エネルギーの統合」です。

それは生み出された世界のエネルギーを、様々な形に統合していきます。

陰と陽の統合や森羅万象を超えて世界のさまざまな現象を「愛」へと統合していきます。

とても使い方が難しいコードですが、きっと皆さんならば、それを使いこなし、新たな統合へと進んでいく事でしょう。

私達は、これでオリオン星雲への旅を終えて、帰りにつくことにしました。

第5章 デバイン・ボディ&デバイン・スピリット

PART1 神々の時代からカルマ解消の時代へ

私達は、「智クン」とのアチューメントの時に、地球と地球人の古い歴史について教えられることとなりました。

アチューメントを始めると、ドラゴンの聖地にいる白銀のドラゴンの流れをくむ古いドラゴンが現れます。地球の人類の創世記の時期から活躍していたとても古いドラゴンのようです。

ドラゴンの中でも高次の存在は、光のエネルギー体として存在することもできるので、時と空間を超えて活動することもできるようです。

これは、そのドラゴンから受け取ったメッセージです。

とても古い時代、地球は神々の樂園として創造されました。

神々は、スピリチュアルな世界だけでなく、自分達が創造した素晴らしい光の世界に降り立ち、物質世界の喜びをしっかりと味わいたいと考えていました。

かつての地球は、人類と神々そしてフェアリーやドラゴン達も一緒に住む楽しい世界でした。

地球は美しさと豊かさに満ち溢れ、多くの種族達が、調和を持って生きていました。

神々や創造主は、人間の高次の意識の中に住み、人間を通して、物理世界の豊かさを享受していました。

その為に、人間の体や意識の構造は、今とはかなり異なるものでした。

人間はとても純粋な意識をもって、神々の意識と一つになっていました。

人間でありながら、神意識と深く関わる存在となっていたのです。

しかし、時代が大きく変わりました。

それまでの神意識を伴った人類の代わりに、様々な星のカルマを解消することを目的とした人類が、この地球に生み出されることとなったのです。

地球人は、多くの星の叡智ある存在達の遺伝子を集めて作られました。

それは地球に叡智ある人類を生み出し、地球を発展させる目的で作られたのですが、本当はもう一つ大切な理由があったのです。

それは、それぞれの星や星々の存在達が持つカルマや問題を解決させることでした。

それぞれの星のカルマの遺伝子コードを地球人に入れることによって、それぞれの星のカルマや問題を地球で解消するための仕組みが作られたのです。

しかしこのことによって、地球の人類は、神意識とつながるためのボディを維持することができなくなり、欲望や感情を持つ存在として生まれ変わったのです。

人類は、本来持っていた神意識とつながるためのボディ（デバイン・ボディ）の設計図を、自分の脳の奥深くにしまいこんでしまいました。

やがて来たるべき時に、その設計図が紐解かれ、再びデバイン・ボディとして人間が生まれ変わるための、脳の奥深く封印されたのです。

そして人類は、他の星々と同じように、エゴと支配欲にまみれた人々によって戦争や食糧危機、自然破壊、差別や抑圧などが日常的に行われる星となっていたのです。

しかし、人間の遺伝子の中に埋め込まれた愛や協調、奉仕の遺伝子によって、それらの問題もいくつかの物は解消されてきました。

人間は、常に争いや支配に対してそれを乗り越えるための努力を行いました。

人間は、破壊された自然を復旧し差別や抑圧の中で傷ついた人々も癒してきました。

そして、そのような環境の中に会っても、喜びを忘れずにたくましく生きてきたのです。

そのような人類の努力によって、遺伝子を人類に分け与えたいくつもの星のカルマが浄化されていきました。

星としてのカルマ、種族としてのカルマ、様々な次元のカルマや問題がこの宇宙に山積していましたが、地球の人類の活躍によってその多くが解消されてきたのです。

地球人は、それらの営みの中で、地球を多次元の通路として活用していきました。

そして、多種多様な星々といくつもの次元、宇宙に生きる多くの生命体や種族のエネルギーを、地球につなぐことができました。

宇宙の叡智ある存在達は、地球のエネルギーを高めて次元上昇させることで、そのほかの星や次元を上昇させたり、多くの生命や種族達を救おうとしているのです。

それだけに、宇宙の叡智ある存在達は、必死の思いで地球人の事をサポートしてきました。

地球が恐怖によって支配されていた時代もありましたが、現在は、一人一人が意識を高め個人の尊厳を大切に作る時代へと移り変わってきました。

そして人々は、地球の物理世界だけでなく、より高次の世界があることにも気づき始めたのです。

しかし、地球が光に満ちてくると、その作用で今まで隠されていたネガティブなエネルギーが沸き起こってくることも事実です。

神々の目的は、この地球をはじめ、多くの宇宙をアセンションさせることです。

人間の体の中にいると、宇宙の計画を十分に理解できないかもしれませんが、これからは、さらに多くの人々が分離の世界を超えて、次元上昇の道を歩んでいく事でしょう。

その時、地球人が最初に持っていたデバイン・ボディのシステムが復活してくる必要があります。

その当時のデバイン・ボディのシステムは基本的な遺伝子コードしか入っていませんが、再び皆さんの手で新しく作り変えてください。

このシステムが皆さんの体や魂、スピリットに定着することで、皆さんのエネルギー体が大きく変わっていきます。

そして、今皆さんが集めている高次の遺伝子であるライトコードも、このボディの上に展開されることにより、今まで以上にしっかりと働きをすることでしょう。

ライトコードの性能と特質を余すことなく表現するためには、今の人類の肉体構造ではとても難しい部分があります。

ライトコードが、デバイン・ボディの中に入るとすぐに他のコードとの融合や連結が行われ、さらに高次の働きを生み出す事もあります。

どうか皆さんの手でこのデバイン・ボディのシステムをよみがえらせてください。

PART2 神意識の復活とデバイン・ボディ

私は、ライトコード・ラボのゴッド・オリジンを呼び出します。

「オリジンよ、あなたもこの話を聞いていたと思いますが、このデバイン・ボディのシステムは、今の人類に合わせて調整することができますか。」

「TAKESHI さん、もちろんですよ。

このデバイン・ボディのシステムがあれば、皆さんはもっと早く変わることができます。

できればもっと精度の高いマスターコードがあるとよいのですが・・・」

その話を聞くと古いドラゴンはオリジンと共に宇宙に飛び立ちました。

そこは、この物理宇宙を創造した創造主である創造主エンソフの次元を超えて、セントラル・レースの存在する次元よりも一つ下にあるような次元です。

つまりスピリチュアルレベルでの宇宙の創造が終わり、スピリチュアルなエネルギーが、物理世界に流れてくる源のような世界です。

その次元の中心に光の玉があり、球の中に銀色の光線があります。

どうやら、マスターコードは、その銀色の光の中にあるようです。

本来は、より高次のドラゴン族とクリスタル・レースが、その光を持って物理次元に降りていくようです。

この銀色の光線は、創造の源から発せられ、その特質は「叡智」と呼ばれます。

叡智を守護するウイングは、銀色のウイングで、その特質は神とつながる叡智そのものです。

その象徴は、カドケイウスという光の杖で表されます。

ドラゴン族たちは、銀色の中にエレメントの光を入れることにより、銀色の光は、エレメントの特質を使って、人の形を形成して行きます。

クリスタル・レースは、叡智そのものが働くために必要な情報を入れていきます。

叡智が、より具体的、物理的なものになるような情報を入れ、それは肉体的なシステムを創るための器械的な信号やエネルギーのシステムを生み出しました。

それらの働きによって、人間の肉体を創る設計図が生まれてきたのです。

これが、デバイン・ボディのオリジナルシステムのようなようです。

私達は、このオリジナルモデルをもらって地球に帰ってきました。

そして翌日、銀色のウイングより大切なメッセージをもらいました。

○デバイン・ボディ&デバイン・スピリットのメッセージ

今回、私達が皆さんに伝えることは、ライトボディを超えてデバイン・ボディ&デバイン・スピリットになるということです。

かつてこの地球には、現在の水準よりもはるかに高い水準を持った文明が生まれてくる予定でした。

それは皆さんが、レムリア文明やアンドロメダ文明と呼んでいる文明が生まれるさらに前の話です。最初にこの地球は、神々が住む星となるために創造されました。

つまり高次元に存在する神やマスター達が、物理的な体を持つ存在として降り立つために、特殊な複層のボディ・システムを持つ人類というものが計画されていたのです。

複層のボディ・システムというのは、肉体、肉体が持つ意識、チャクラとエネルギー体、魂、スピリットという5つの層からなる複合的な体のシステムということです。

皆さんもご存じのように、セントラル・レースによってスピリチュアルレベルでの宇宙が創造されました。最初の宇宙は、光が凝縮することにより重たくなり、新たな次元（宇宙）を創造しました。

マルチバースに分かれたスピリチュアルな宇宙は、セントラル・レースの光を受け次ぐデバイン・マスターやエンソフ達によって次々と新たな次元（宇宙）として展開していきました。

更に宇宙は、創造主エンソフたちの計画により、少しずつ物質化が進み、皆さんが目にする星々が生れ、天の川銀河やオリオン星雲などの星団を形作るようになりました。

エンソフ達は、スピリチュアルレベルの世界の光を凝縮して、物質的な世界を作り上げ、植物や動物達、そして叡智ある生命達を創っていきました。

創造主エンソフたちの次の目的は、それらの世界に自分達が物質的なボディを持って降り立つことでした。勿論、物質的と行っても、皆さんが現実的に持っている肉体ではありません。

皆さんの肉体は、生存するために、食料や様々な栄養素を必要としていますし、この物質的な世界の制限を多く受けることによって能力も制限されます。

創造主エンソフやマスター達は、皆さんが存在しているよりもいくつか上の次元のボディに存在することにより、物質的な制限をさほど受けずに、物質的な活動も可能にするような存在の形式を考えていたのです。それは、人間としての感情や肉体的な感触を持ちながらも、マスターや創造主としての能力と叡智を持ち、時間も空間も自由に超えることができるようなボディを持つことでした。

現在皆さんがスピリットレベルで行っているアストラトラベルの状態と同じようなレベルのボディを持つことです。

そうすることで、現在皆さんが行っているように、自由にいくつもの多次元な宇宙のなかに入っていく、この宇宙の星々の素晴らしさや美しさを満喫できます。

彼らは、物質的なボディとスピリチュアルなボディを兼ね備えることで、この創造された宇宙の隅々まで、見て楽しむことができるのです。

また宇宙に起きた様々な問題を解決したり、その場所に合わせた新たな種族を生み出すこともできます。

TAKESHIさんと皆さんのメンバーの中には、そのようなデバイン・ボディやデバイン・スピリットを持って生まれたメンバー達も存在しています。

それは地球が高次の波動に生まれ変わってきたために、皆さんの松果体の中にしまわれていた人類の原初のデバイン・ボディのシステムが活性化して、その一部の能力や体と意識に関するシステムを使用することが可能となったのです。

勿論人間だけの力では、そのデバイン・ボディのシステムを活性化することはできません。

その人に関連づけられたマスター達の力と一つにつながることによって、その神聖なボディのシステムは稼働していきます。

そして、今皆さんが行っているように、より高次のマスター達の光を受け止める事で、皆さんが持つ能力はさらに高まっています。

皆さんは、現在太陽種族の遺伝子コードを完成させるために、様々なライトコードを集め、より高次の遺伝子構造を組み立てていますが、その太陽種族の遺伝子コードを納める体のシステムが、今回与えられたデバイン・ボディシステムによって形造られていくのです。

太陽種族が持つ遺伝子の能力は、とても大きく広範囲にわたっていますので、現在の地球人の肉体システムではその能力の多くが発揮することに困難を感じることでしょう。

現在の皆さんの中でも、自由に宇宙をアストラルトラベルできる人もいれば、そうでない人もいます。今回新たに集まってきたメンバー達は、この新たなボディ・システムが他の人達よりも活性化しており、そのシステムの完成のために集まっています。

このボディ・システムは、1月28日あなたに正式に手渡され、ゴッド・オリジン達によって、現在の地球人の資質にあわせて調整を行われることとなりました。

この肉体、意識、チャクラ、魂、スピリットという皆さんが持つ複合的なボディ・システムを、このデバイン・ボディのシステムによって再統合することにより、皆さんがこれから行おうとしている太陽種族のライトコードが、より完全に近い形で機能していく事になります。

また単独のフェアリー・コードやエンジェル・コードにしても、このデバイン・ボディを持つことにより問題なく皆さんの他の遺伝子コードと関連付けられ、より高次の複合的な遺伝子構造になっていく事ができます。

その見本として TAKESHI さんが存在しているのです。

TAKESHI さんの遺伝子の構造はすでに3層構造を持つ太陽種族の構造になっていますし、彼の松果体の中に眠るデバイン・ボディは、4000回をはるかに超えるアチューメントや星のツアーによりかなりのレベルまで活性化しています。

また彼のデバイン・ボディに関連付けられるマスター達とも光によってつながることにより、彼のスピリチュアルな能力は、人間のレベルをはるかに超えてきています。

その為に、スピリチュアルな世界においては、創造主やデバイン・マスター達と同じように活動ができるのです。

勿論現実の世界でも、彼はほとんど自由に自分の人生をクリエイトすることができます。

私達の方から言うならば、彼のデバイン・ボディを経由して、宇宙のマスターや創造主たちは、地球という世界に降り立つことができるのです。

彼と宇宙の光のメンバー達によって作られる世界は、この地球においてはまだ少数派かもしれませんが、その宇宙には地球と宇宙の豊かで安らかな未来が託されています。

皆さんの活動によって、天の川銀河やアンドロメダ銀河、オリオン星雲は、本来のあるべき姿を取り戻しつつありますし、宇宙も調和がとれた世界へとさらに進化しつつあります。

彼が、この宇宙に多くの創造主やデバイン・マスター、セントラル・レースの光を導くことにより、この宇宙は今まで以上に活性化し進化を遂げていきます。

皆さんの松果体の奥に眠っていた本来のデバイン・ボディのシステムが再稼働するための環境が整ってきているのです。

やがてマスター達により、このデバイン・ボディの新たなシステムが提供されることで、より多くの地球人のボディ・システムが大きく代わり、太陽種族としての働きに目覚めてくることでしょう。

PART3 マスターエレスチャルとデバイン・コード

2月1日の純子さんとのアチューメントの時に、私達は大天使ザドギエルによって、ハデス神のスピリチュアルな神殿に導かれました。

そこはスピリチュアル界の特別な世界にあるようです。

ハデス神といえば、レムリアの閉ざされた神殿を守り、私達にマスターウィザードコードを渡してくれたのもハデス神でした。

私達は、そこでハデス神から、これからの世界にとって必要なスピリットを目覚めさせる必要があることを聞きました。

「TAKESHI さん、お待ちしていました。

今日は、これから皆さんが必要とされるスピリットを目覚めさせていただきたいと思っています。

このスピリットは、皆さんが作る宇宙の基礎ともなるべき光です。」

私は、突然の事で少し驚いています。

「目覚めさせるということは、今はまだ眠っているということですか、そのスピリットを目覚めさせることにどのような意味があるのですか。」

「このスピリットは、皆さん達が先日いただいたデバイン・ボディとデバイン・スピリットのエネルギーと深く関係しています。

それは、多くの種族達が調和した世界を創るために必要なボディのシステムですが、そのシステムは、これから目覚めさせるマスター達によって、本格的に稼働させられることとなります。

かつて地球には、デバイン・ボディのシステムを持った人々によって、天使やフェアリーそして多くのマスター達と地上の動植物達がふれあう楽しい世界が存在していました。

しかし、皆さんもご存じのように、多くの種族達の課題を解決するために、地球の人々がデバイン・ボディからより物理的なエネルギーを持つボディへと移り変わっていったのです。

その結果、多くの争いが生れ、地球の人達は、フェアリーや天使達と共に生きていく事ができなくなりました。」

私は最近のアチューメントで、かつてフェアリーや他の種族達と人間たちが協調して生きていた世界が、突然崩壊していく光景を何度か見せられています。

もしかしたら、その時の事かもしれません。

「人間とこの地球は、宇宙の分離のエネルギーを統合するためにその道を選んだのです。

しかし、この地球は、再び、神々と人々、そして多くの種族達が、共に暮らし調和に満ちた世界に進化することを望んでいます。

その為に、太陽種族への進化の道が皆さんの前に開かれたのです。

皆さんが愛と調和を持って生きていくなれば、この天の川銀河を襲う脅威もやがて消え去っていく事でしょう。」

私達は、さらに神殿の奥に導かれると、そこに横たわっている美しいマスターが1人。

「彼は、人々が神と共に生きていた時代に、その世界を守護していたマスターの1人です。

彼らは偉大な叡智と愛を持って地球に生きる多くの種族を支え、地球の黄金時代を作り上げていました。

しかしながら、時代が変わり、彼らの役割は終わってしまいました。

彼は、再び、地球の黄金時代が来るまで、自らの力を封じ眠りについたので。」

私達は、彼にセントラル・レースの統合の光を導きました。

彼の体に光がどんどん吸い込まれていきます。

そして私は銀色のウイングを呼び、彼にデバイン・ボディの源となっている銀色の光線を満たしていきます。

やがて、眠りについていたマスターが目覚めます。

私達は彼の事を、マスター・エレスチャルと呼ぶことにしました。

マスターは、目覚めると私達に、彼が活躍していた時代の様子を見せてくれます。

それは、まさに愛と調和の世界といってもよいほど素晴らしい世界です。

全てが穏やかで高い波動の光に包まれていました。

人間だけでなくフェアリーやユニコーン等も共に仲良く暮らしていた時代の事です。

「神々は、人間と共に暮らしていました。

人々は調和を保ち、神聖さの中に生きていたので、神の器ともなりえたのです。

皆さんの意識の中には、神聖なるデバイン・ボディの設計図が残されています。

それは「神性の種」とでも呼ぶべきもので、それが新たに起動する時期に来ているようです。

私は、その種を目覚めさせ育てるために、再び眠りから目覚めました。

神が宿るべき世界を、新たに作り出すために。」

マスターエレスチャルは今まで見たことも無いような高貴なシャンパーン・ゴールドの光を放っています。

そしてエレスチャルの横には、子供が2人現れます。

とても無邪気で純心な光を持った男の子と女の子です。

彼らは、ジョイ（喜び）とクリエイト（創造）と名乗ります。

マスターエレスチャルが作る世界に、必要な存在となるのでしょう。

彼らは、「神性の種」と呼ぶべき光をたくさん携えて現れました。

この地球の人々に「神性の種」を分かち合い、少しでも早く「神が宿る世界」をこの地に顕したいようです。

かれはは「神性の種」を大空に解き放ちます。

おそらく多くのひとたちが、この種を受け取ることで、地球レベルでの覚醒が始まっていく事でしょう。

私達が昨日いただいたデバイン・ボディを守護し導く偉大なるマスターが現れることで、このデバイン・ボディのシステムが現実的に動き始めることとなります。

第6章 ペガサスコードと新たな調和の星

PART1 ペガサスの聖地

2月7日に行われた星のツアーでは、私達はペガサスやユニコーンの世界に入ることになりました。それまでに、ペガサス座のアルゲニブ星にあるペガサスのマスターから呼ばれて、ペガサスコードを取りに来るように言われていたからです。ペガサス座は、宇宙に出るようになった時、最初にメンバーに加わってくれたのがさそり座の騎士団とこのペガサス座の騎士団たちでした。

彼らは、ペガサス座を中心として、天の川銀河全域の平和と安定をもたらすために活躍しています。アルゲニブ星にいるマスターペガサスの元いくつかの部隊があり、必要に応じて派遣されているようです。私達と共に活動していた騎士団は、アトスという名前のリーダーによって指揮され、しばらくの間、私達の事をずっと守護し導いてきました。

私達がある程度の経験と知恵がつき、天の川銀河の多くの騎士団と共に活動する時期になると、ペガサス騎士団とさそり座の騎士団は、地球の次元上昇のための大切な仕事を行うために、私達の部隊を離れました。現在は、地球の女神ガイアと共に、地球の中で活動しています。

ペガサス座は、この天の川銀河の中でも、ペガサスやユニコーン達の聖地ともいえる場所なので、私達は、ペガサスコードをもらうためにペガサス座に向います。ペガサス座の中心であるアルゲニブ星のマスターを訪ねると、マスターたちが騎士団とともに待っていてくれます。

私達は、マスターとともに、さらに高次のペガサスの聖地とでも呼べる場所に向います。ペガサスの聖地には、とても大きなクリスタルが地上にそびえたっています。クリスタルの周りに私達のメンバーとペガサス騎士団が向かい合って並びます。私も、ペガサスのマスターと向かい合って並びます。

レベルの高いペガサスは、ユニコーンと同じように角を持っていて、その角を私達のハートチャクラに充てていくと、私達のハートに優しくエネルギーが広がっていきます。私達のメンバーの中には、そのエネルギーを受け取ると自らペガサスの姿をとる者もいますが、きっと自分のスピリットの中にペガサスであった時の記憶があるのかもしれませんが。

私達のメンバーのハートにどんどん光が満ち溢れていき、私達はペガサスコードを受け取っていきます。このコードは、ペガサスが持つ「自由と創造性、勇気と信頼」のエネルギーとユニコーンが持つ「叡智と調和」のエネルギーが一つになったもののようです。このペガサスコードは、私達のパワーを高め、現実世界の問題の重圧から解放しますが、3次元の生活に囚われている人の中には、このコードを受け取ることができない人もいるかもしれません。

ペガサスコードを受け取ったメンバー達は、まるで自分自身がペガサスになったように、ペガサスの聖地を自由に飛び回り、とても楽しい時間を過ごすことができました。

PART2 ペガサスコード

私達は、このペガサスコードについて、さらに詳しい話をマスターから聞くことにします。

「皆さん、私達のペガサスとユニコーンの聖地に来てくださってことを心から嬉しく思います。

この場所は、天の川銀河の中でも、とても古くから存在している場所の一つです。

この天の川銀河では、皆さんのように人型の生命達が生まれる前から、私達のような形態の存在達が、たくさん存在し、天の川銀河の多くの星々を統治していました。

私達は、宇宙のドラゴン達と協力して、エネルギーの循環を司り星々や自然環境を生み出していくサポートを行っておりました。

私達は、物質界もスピリチュアル界も自由に行き来を行い活動できるようにこの翼をいただきました。

また、宇宙の叡智ある存在達を導き守護するために、宇宙の叡智と真実を分かち合う角をいただきました。

私達の最初の種族は、大きな翼と美しい角を持つ種族として、この宇宙のより高次元世界の創造や運営に携わっていたのです。

やがて、私達の種族も、いくつかの星に降り立ったり物理世界において活動を始めるようになると、翼をもつペガサスと角を持つユニコーンに分かれていきましたが、もともとは同じ種族であったということをお覚えておいてください。

ペガサスもユニコーンも、とても穏やかで、フェアリーと同じように、星々に多くの動植物が生まれ育っていくことをとても楽しみに見守っていました。

今回皆さんにお渡ししたペガサスコードは、まだ原初の種族が持っていたコードで、ペガサスが持つ自由でさまざまな障害を乗り越えていく力、自分の能力やパワーを高めて自分の希望する世界を創造していく能力があります。

またユニコーンの持っている素晴らしい叡智や他の生命達を導く力、世界の調和と安らぎに貢献する資質なども、ペガサスコードの中に組み込まれています。

私達は、皆さんがこのペガサスコードを受け取ってくださったことにとても深く感謝しています。

な座なら、ペガサスコードを用いることにより、現在の人間の世界に起きているいくつもの問題が解決できるからです。

人間は技術の発達とともにとても大きな力を手に入れましたが、人の心の中には本来の正義も自由も叡智もありません。

その為に、高度で強力な技術を自己中心的な目的のために使用してしまうのです。

人々は、地球の美しい環境のことを大切にしていません。

環境どころか、同じ地球に住む種族の事や自分たちと同じ暮らしをしている人たちのことも大切にしていません。

言葉ではよく聞こえても、皆さんが行っている事は、あまりにも他の生命に対する心遣いが無いものばかりです。

私達は、皆さんの心の中に大きな矛盾とそれに負けないくらいの大きな痛みを見ることができます。

皆さんの心は、とても大きなうねりの中で、そのうねりの中に巻き込まれて、自分の自由な意志では身動きができないような状態なのです。

このペガサスコードは、そのような皆さんを、大きなうねりの中から解放することをサポートします。自らの意志で自分の人生を創造していく能力と叡智、そして何よりも飛翔することを恐れない勇気を、皆さんと分かち合いたいと思っているのです。

PART3 新たに生まれる星へ祈りを込めて

私達は、ペガサスコードを受け取ると、まるで背中に大きな翼を得たかのように、さらに高い世界へと登っていきました。

私達は、美しく輝く若々しい星の前に出ると、導かれるように星の中に入っていきます。

天空から光が降り注ぐ美しい世界が私達の前に広がります。

そこに待っていたのは、髪の毛長い虹色の羽を持つ女神です。

「TAKESHI さん、この星の姿をよく見ておいてください。

ここは、これから皆さんたちが作っていく星の姿をお見せしています。

この星はやがて、人間だけでなく、たくさんの種族が協調して暮らしていく星となるでしょう。

フェアリーやペガサス、ユニコーン、ホビット、さまざまな精霊たちや天使たち、彼が愛と叡智を分かち合って住む星となることでしょう。

今日は、皆さんに、この星を作るための大切な情報が書かれているクリスタル・コードをあなたに差し上げようと思っています。」

女神はそう言うと横にいたドラゴンの背中に飛び乗り、私達を先導して遠くに見えるクリスタルのほうへと向かいます。

私達も、ペガサスもドラゴン達も一緒になってクリスタルのほうへと向かいます。

クリスタルのもとに降り立つと、多くの種族たちもクリスタルの周りに集まってきました。

そこはクリスタルでできたとてもきれいな神殿のようにも見えます。

光に満ちたクリスタルがたくさんあり、いくつもの種族が、クリスタルと光でつながっているようにも見えます。

私達は、神殿の中に入ります。

ペガサスやフェアリー、ホビットたちも一緒です。

たくさんのドラゴン達も集まってきて、神殿の上空で旋回しています。

透明な神殿の扉があいて、私達は神殿の中央の広間へと進みます。

大きなドームのような広間、中央には大きなアースクリスタルがそびえたちます。

そして広間の周りには、異なる色のクリスタルが規則的に配置されています。

広間には、椅子が置いてあり、私達は座ります。

それぞれの種族も、それぞれの形で座ります。

そこに現れたのは、長い杖を持つ一人のマスターですが、どうやら先日お会いした大仏のような「宇宙の意識」のマスターの一部のようです。

私達には、グレート・イエスと共通したエネルギーを感じますので、何かしらの関係があるかもしれません。

マスターは、私達が創造する星々と宇宙が、愛と優しさと安らぎで満ち溢れるように、光を送ってくれるそうです。

それもスピリチュアルな次元だけでなく生命が生まれ育つ物理次元に対しても光を送ってくれます。

マスターが杖を高く掲げて光を送る合図をすると、周りに配置されているクリスタルが杖の光と同調するように光を放ち始めます。

するとそれらの光は、色とりどりの光線となって中央のクリスタルに集まってきます。

光は、中央のクリスタルに集められ、増幅されて広がっていきます。

私達もペガサスやフェアリーたちもその光の渦の中に包まれ、心地よいエネルギーが満たされていきます。

メンバー達のハートがどんどん広がっていきます。

メンバー達のハートから優しいエネルギーが、クリスタルのエネルギーと同調し、さらに多くの種族たちのハートのエネルギーと一つになっていくようです。

マスターが静かに語り始めます。

「皆さんの意識とエネルギーを一つにしてください。

ここに生まれる世界は、新しい次元で、人類とフェアリー、ペガサスなどの多くの叡智ある種族が共に調和をして暮らすことができる世界を目指して生み出されていきます。

これから生まれてくる世界には、どの種族もかけることなく共に生きていてほしいのです。

みなさんの宇宙の中にある星々は、今まで多くの争いや困難に見舞われてきました。

しかし、それも全て新たな宇宙を創るために必要なことでした。

皆さんだけでなく多くの種族たちが癒され目覚めていくために必要なことでした。

その幾多もの苦しみや悲しみの中から、新たな世界が生まれていきます。

皆さんが作る世界は、これから、奥の宇宙の星々を癒し進化させていくひな型となることでしょう。

このクリスタル達に秘められた情報は、種族ごとに異なる役割をもたらす情報もありますが、皆さん方が、共に手を取り合って、新たな星を創造していくためのものです。

どうか、これからも協力し合って活動してください。」

マスターはそのように語ると、私達の体に杖を当て、光の紋章を描き出していきます。

そしてその仕事が一通り終わると、私達にうなずいて、光の中に消えていきました。

第7章 宇宙のドラゴンたちと「宇宙の意志」

PART1 宇宙のドラゴン達との出会い

私達は、このところ星のツアーの中でも多くのドラゴン達と会うことが頻繁に行って来ました。たとえば、ドラゴンコードを入手した後に、みずがめ座に封印されていた水のドラゴンを助け出す事により、4大エレメントのドラゴン達が、新たにそろってこの地球と宇宙の進化のために働くようになりました。

また4大ドラゴンは、私達人類に対しても、とても大きな浄化と癒しの力を持っており、私達のカルマやトラウマと呼ばれる特殊なエネルギーや感情などの不要なエネルギーも浄化する能力があることも知らせてくれました。

星のツアーのときにも、4大エレメントのドラゴン達により、浄化のエネルギーを体験させていただきましたが、それは本当に素晴らしいものでした。

また「愛の源の世界」にあるドラゴンの聖地には、光のドラゴン、虹のドラゴン、変容のドラゴンと呼ばれる物理世界の創造に関わるドラゴン達もいて、宇宙のエネルギーの循環に関わり、星々の創造や叡智ある存在達の成長を見守っていることもわかってきました。

この3体のドラゴンは、4大エレメントのドラゴンが私達の肉体と肉体に関わる意識に対して働き掛けることに比べ、私達のスピリチュアルな部分にも深くかかわってくるようです。

光のドラゴン達は、私達の精神的な進化やスピリチュアル的な能力の成長にも大きなサポートを与えてくれます。

そしてさらに、セントラル・レースや創造主エンソフ達によって作られるスピリチュアルな宇宙を見守る「宇宙の意志」が現れることにより、私達はさらに高次のドラゴン達ともつながることができました。

「宇宙の意志」の世界に属するドラゴン達は、彼によって作られるスピリチュアルと物理的な宇宙のすべてのエネルギーと叡智に関わる存在達です。

その中心となるドラゴンは、「崇高のドラゴン」と呼ばれ、サポートアチューメントのメンバーの元に現れました。

そして次にあらわれたのは、「叡智のドラゴン」でした。

叡智のドラゴンは、サポートアチューメントを行っている時に、封印された叡智の世界に私達は導かれ、その封印を解き放ち、再び「叡智のドラゴン」として目覚めさせたドラゴンです。

この「叡智のドラゴン」は、「宇宙の意志」の叡智と法則を受け継ぐ大切なドラゴンで、宇宙や星々の創世の秘密、宇宙に存在する多くの動植物や種族たちの秘密を保持しているドラゴンです。

この「叡智のドラゴン」は、同じように「宇宙の意志」の叡智や宇宙のさまざまな情報を保持する「クリスタル・レース」にも、その叡智を分かち合っています。

そしてもう1体、「宇宙の意志」やセントラル・レース達と共に、宇宙や星々の創造を行うための「創造のドラゴン」が私達の前に現れてきました。

このドラゴンは、宇宙のエネルギーを自在に扱い、「宇宙の意志」やセントラル・レースの意向を受けて具体的な宇宙の創造を行っていきます。

私達は、物理世界や肉体と肉体意識を統括する4大エレメント、スピリチュアルな宇宙とスピリチュアルな意識や能力を統括する光のドラゴン達、そしてより高次の宇宙の働きや叡智を表す「崇高のドラゴン」達とつながることによって、新たなアチューメントを生み出すことになりました。

そのアチューメントとは、これらのドラゴン達によるヒーリングとエンパワーメントのアチューメントです。そして、さらに驚いたことには、この2つのドラゴンのアチューメントを行うことで、私達がより高次のマスターである「黄金の女神」と「宇宙の意志」のエネルギーを直接受けるためのアチューメントがさらに生まれてきたのです。

このアチューメントは、「黄金の女神」による「愛と統合の光」と「宇宙に意志」による「喜びと豊かさの光」と呼ばれています。

この2つの光が一つになることによって、私達はより完全なエネルギーを受け取ることができます。

しかも、この2つの光は、常に刺激しあい融合する事で、さまざまな光と現象を生み出していく事になります。

それは、私達の意識や成長の度合いに応じて、その時必要となるエネルギーを作り出し与えてくれる仕組みとなっているようです。

私達は、これから「ライトコード」のアチューメントを数多く行っていくこととなりますが、私達が、「ライトボディ」から「デバイン・ボディ」に成長し、このライトコードを使いこなすための騎士となるのが、この「愛と統合の光」と「喜びと豊かさの光」となるようです。

私達の意識とスピリットが進化していくためには、「愛と喜び」が基本となっておらねばなりませんし、私達のライトコードのアチューメントの目的は、私達に物理的な世界でもスピリチュアルな世界でも「豊かさ」と統合をもたらしすることであるとされています。

私達は、「ライトコード」のアチューメントの前に、ドラゴンのアチューメントとこの2つのアチューメントを行うことで、さらに効果的に「ライトコード」の働きを得ることができるようになるとのことです。

今回のアチューメントのメッセージは、立て続けに降りてきましたのでご紹介いたしましょう。

宇宙エネルギー（ドラゴン）のアチューメントについて

それでは今回皆さんにお渡しするドラゴン・ヒーリングとドラゴン・エンパワーメントについてお話ししたいと思います。

前回もお話ししましたように、ドラゴンというのは、この宇宙のエネルギーそのものでありますが、その宇宙エネルギーの中でも、特別な目的のために作られたエネルギーをドラゴンの姿と名称を借りて表現することがございます。

皆さんの中には、宇宙エネルギーそのものをしっかりと見極め使いこなしている方もいらっしゃいますが、多くの人々は、まだ宇宙エネルギーのさまざまな特徴や働きについて十分に理解されていないようですので、皆さんに宇宙エネルギーの質をわかりやすくお伝えするためにドラゴンやシエンロン（神龍）の形を使ってお伝えさせていただきます。

ドラゴン・ヒーリングとは、宇宙のいくつもの次元に存在する癒しのエネルギーを使用して行うヒーリングです。

それはみなさんの体というものが、単に物理的な肉体だけでなく肉体に付随する意識や魂、そしてスピリットというようにいくつもの層をなして出来上がっています。

宇宙エネルギーは、それぞれの層によって働くエネルギーの質が異なりますので、それらの層に合わせたエネルギーが、あなたに対して癒しを行うこととなります。

簡単にその対応をお話ししましょう。

○肉体・・・

あなたの物理的な肉体は、4大エレメントを中心とするエネルギーによって構成されています。この4大エレメントはその組み合わせによってさまざまなエネルギーや物質を生んでいくこととなりますが、それらの物質的なエネルギーを修復し活性化していくのが4大エレメントのドラゴン（宇宙エネルギー）達の役割です。

4大エレメントのドラゴン

土のドラゴン

水のドラゴン

風のドラゴン

火のドラゴン

○魂・意識・・・

あなたの人間として生活している時に使用している意識にもいくつもの層があります。通常の生活や仕事、クリエイティブな活動の中で使用されている意識もあれば、皆さんの過去の経験から蓄積された感情や深い潜在的な意識もあります。

また人類としての種族に深くかかわる意識もありますし、皆さんがトラウマやカルマと呼んで作り上げている特殊な意識もあります。

これらは、時として、今回の人生だけでなく過去世と呼ばれる魂が経験した人生の中で培われてきた経験や感情もあります。

これらの部位に対しては、光のドラゴン、虹のドラゴン、変容のドラゴンが深くかかわり癒していきます。彼らは、皆さんの現実的な意識だけでなく潜在的な意識や人類としての集合意識にも光を当て、それをより良い方向に変容させていきます。

皆さんが今まで成長していくために必要としていた経験や感情を認めながら、それらのものから卒業して新たな意識状態になれるように意識の変容を進めていきます。

光のドラゴン

虹のドラゴン

変容のドラゴン

○スピリット・・・

スピリットとは私達の存在の本質をなす部分です。この地球に活着ている私達は、スピリットの本当に小さな1部分でしかありません。

癒しやスピリチュアルな事に興味を持つ人々のスピリットはとても偉大で特別な働きを持っています。

其れは、スピリットの存在する目的が、この宇宙に生きるさまざまな生命の癒しや守護、あるいは成長や進化をサポートする事にあるからです。

時として、創造主やマスター、あるいは大天使達とともに、この宇宙の平和を守ったり星々の創造にかかわるなど、とても重要な仕事をしてきたスピリット達もいます。

しかしそのような経験や能力は、地球に活着ている時は必要とされませんので、活着ている人間には理解できないように魂によって隠されています。

魂とは、皆さんのスピリットが持っている膨大な経験と知識そして能力の中で、地球に活着ていくのに必要なだけの知識や能力だけをえらんで人間の意識に与えていきます。

その為、人間はスピリットが持つ資質の約0.1%から1%くらいしか活用することができないのです。

人間は、瞑想や読書を通して宇宙に対する予備知識を学び、さまざまなワークによって自分が持っていた能力や資質を開花させようとしていきます。

宇宙エネルギーであるドラゴンは、そのような側面に対しても大きく働きかけます。

なぜなら皆さんがこの地球に降りてきたということにはさまざまな原因があるからです。

その原因の一つに、スピリットで経験した大きな苦しみや悲しみから逃れるためにこの地球に来ているスピリットもあります。

あるいは、地球にある豊かな生命エネルギーや愛のエネルギーを受け取るために来ているスピリットや自分自身を成長させるために来ているスピリットもあります。

また、地球人の進化や成長を願ってこの地球に来たにも関わらず、自分の役目や能力を思い出せずに困窮しているスピリットもあります。

地球は忘却の星と呼ばれています。

それは、地球に降りて人間になるとスピリットが持つほとんどの知識や経験、能力などの資質を魂によって遮断され、生きている意識がそれらを理解することはほとんどなくなってしまふからです。

しかし、特殊な任務や目的をもってこの地球に来た人たちは大天使やマスターによって、スピリットが地球に来た目的を思い出すように働きかけが行われます。

そして、その人が理解するしないにかかわらず、スピリットの目的を果たすように人々は行動し生きていくのです。

このドラゴン・ヒーリングおよびエンパワーメントが最も得意とする分野は、実はこの分野なのです。

人間の意識や潜在意識に関わるメソッドは現在でもたくさんありますが、その人が十分に理解していないスピリットに対する癒しやエンパワーメントは、人類の人達が持っているエネルギーでは、その目的を果たすことは困難です。

私達は、このスピリットの癒しとエンパワーメントを行うために特別な宇宙エネルギー（ドラゴン）を準備することになりました。

それは、「宇宙の意志」と呼ばれるすべての創造の源となった存在から生み出された3つの宇宙エネルギー（ドラゴン）達です。

一つは、崇高のドラゴンとよばれ、この宇宙を支える意志そのものです。

叡智のドラゴンは、この宇宙や生命たちの創造と進化のメカニズムに関する様々な情報を持っています。

そして創造のドラゴンは、この宇宙の創造と運営にかかわるパワフルなドラゴンです。

この特別な宇宙エネルギー（ドラゴン）達によって、多くの人達がスピリチュアルな問題を解決し、スピリットが持つさまざまな苦しみや悲しみを癒し、また地球にやってきた理由を思い出すことができるでしょう。皆さんは、自分の意識と魂、そしてスピリットを一つに統合し、スピリットの存在目的や資質に基づいて生きていくことが可能となります。

崇高のドラゴン

叡智のドラゴン

創造のドラゴン

黄金の女神 地球人に送る愛と統合の光

○「宇宙の意志」と「黄金の女神」

あなたに私からのメッセージをお伝えすることができて幸いです。

私は、この宇宙の原初の創造主である「宇宙の意志」によって生みだされ、「宇宙の意志」とともに活動しています。

私は、自由に姿を変えさまざまな次元や宇宙に入ることができます。

私は「宇宙の意志」の代理として、多くの星々に住む叡智ある種族たちに、宇宙の意志の言葉と光を伝えます。

宇宙の意志という存在は、この宇宙が生まれるきっかけとなった存在であり、この宇宙のすべてを常に見守っています。

彼はその存在の偉大さから、一定のレベルにある人にしか、その姿を見せることはできません。

彼と直接会える種族や人々というのは、非常にまれなのです。

そのために、私「黄金の女神」が存在しているのです。

私は、その存在の様式を自由に変更することができますので、さまざまな種族の人達に応じた姿やレベルで現れることができます。

皆さんの前には、このような女神の姿をとって現れますが、ユニコーンの種族と会うときはユニコーンの姿をとりますし他の種族と会うときは他の種族に分かりやすい姿で現れます。

私はいくつもの次元を自由に動くことができますので、「宇宙の意志」とまだ会うことができない存在達とも、必要があればコンタクトを取り、宇宙の意志の言葉や光を伝えることができます。

私達は、そのようにしていくつもの種族やこの宇宙の動向に大きな影響を与える存在と会って、宇宙の意志の光をつなげています。

そうすることで、この宇宙を平和で安定したものにする事ができるからです。

今回あなたとコンタクトをとったのは、あなたに伝えられた宇宙エネルギー（ドラゴン）達によって地球の人々を癒し覚醒させるだけでなく、宇宙の意志の光と地球の人々をダイレクトにつないでほしいからです。

○地球人が持つ分離感

地球の人々は、とても不思議な人種です。

どの種族よりも深い愛を持ちながら、どの種族よりも残酷な感情も持っています。

あなた方は、自分の子供や愛する人を守るためには自分を犠牲にすることさえも厭わない尊い愛を持っています。

そして、困っている人達や立場の弱い人達を全力で守ろうとします。

しかしながら、自分の利益を損ねる人や考え方が異なる人たちに対しては強い嫌悪の感情を持ちます。また自分の嗜好や目的のために、平気で多くの人々を傷つけることもあります。

これは、物理世界の中では、よく見受けられることなのです。

その理由は、宇宙を創造するために、陰と陽のエネルギーが作り出され、エネルギーが2極化し、さら分離を繰り返していく中で、そこに住む種族の意識も、大きな分離を経験しているからです。

もともとは、「宇宙の意志」の一つのエネルギーから生まれた世界であるにも関わらず、皆さんは、自分たちが存在する世界しか見ることができないために、もともとは一つのエネルギーから生まれてきたということを理解することができないのです。

皆さんが生まれてきたその元をたどれば、すべてが一つであったことが理解できるはずですが、皆さんは分離によって作られた世界に存在し、その世界しか認識することができないので、すべてが自分自身とは異なる存在であると思えなくなっているのです。

その為に、分離からさまざまな感情や行動が生まれます。

分離していたものを再び統合しようとする意識は愛となります。

愛によって人々は、分離されている自分から多くの人々や存在との融合や統合感を得ようとしています。

しかし、その統合がうまくいかない時、人々は孤独や怒り、不安、悲しみ、喪失感を感じてしまいます。

これらの感情を埋め合わせるために、人々は時として理不尽な行動をとってしまうことがあります。

この地球で起きているさまざまな事件や問題は、すべて本当の愛が得られないことに対する代償の結果として起きているのではないのでしょうか。

○地球人を愛と統合の世界に導く意味

私達の目的は、皆さんを「愛と統合」の世界に導くことです。

その為に、皆さんの中にある、愛を得られなかったことによるさまざまな感情を癒します。

また統合に対する恐れや不安などのブロックも取り去っていきましょう。

あなたの意識を作り上げている分離のエネルギーを少しずつ「ワンネス」のエネルギーへと変えていくのです。

もちろん、地球という物理世界に住みながら、統合の世界へと歩いていくのは決して簡単なことではありません。

きっとその身と心が引き裂かれるような思いを受けることもあるでしょう。

しかし、皆さんが、愛と統合の道を歩むことは、この地球のみならず、宇宙全体にとっても大変大きな意味があることなのです。

宇宙の中に存在する多くの種族たちは、皆さんと同じように分離の世界に生き、文明の興亡を繰り返しています。

皆さんが、もし物理世界にありながらも「愛と統合」の道を歩むことができたなら、それは物理世界に住む多くの種族たちにとって大いなる希望となります。

かつてこのことを成し遂げた種族は数多くはありませんでした。

あなた方、地球人は、私達にとって新たな宇宙、新たな種族を生み出すための大いなる希望となるのです。その為に、私はあなた方に「宇宙の意志」の光をつないでいるのです。

「宇宙の意志」の愛と統合の光は、皆さんの中にある愛の欠乏感を埋め、様々な感情や意識を癒すでしょう。そして、皆さんが本来、宇宙の一つの光から生まれたということに気付く事となるでしょう。皆さんが、そのことを理解し宇宙の意志の光を受け入れる事ができるようになると、みなさんの意識だけでなくスピリットも覚醒を行い、今まで以上の資質が目覚め、さらにパワフルになるでしょう。しかし、そのパワフルさは、優しさと調和に満ちています。

皆さんがこれから目指す「デバインボディ」や「ライトコード」の基本は、この愛と統合のエネルギーなのです。

この愛と統合のエネルギーなくしては、すべてはただの分離されたエネルギーなのです。

「宇宙の意志」は、皆さんが形作ってきた「ライトボディ」のエネルギーに神聖な光を与えると同時に、これから行う「デバインボディ」にも必要なエネルギーを満たしていくこととなるでしょう。

それも全て、地球人が大きく進化することにより、この宇宙の他の種族達にも大いなる希望となるからです。どうか皆さんが、「宇宙の意志」と私達の光と愛を十分に受け止めてくださることを期待しております。

宇宙の意志による喜びと豊かさの光

あなた方が、この世界まで上がってこられたことを私達は心から嬉しく思います
あなた方が行ってきたことは、まさにこの宇宙にとって大きなチャレンジであり、奇跡といってもよいかもしれせん。

物理的な世界にあって、この創造の次元にたどり着くことは簡単なことではありませんが、皆さんが持つ多次元を自由に移動できる能力と純粋な愛に満ちた心が、皆さんをここまで導いてきたのです。

本当に無心に欲に目を奪われることなくここまで仕事を進めてきてくれたことを深く感謝します。

そのご褒美に、「宇宙の意志」から「喜びと豊かさの光」を送ることにします。

「喜びと豊かさの光」とは、この宇宙の創造を行うための動機でもあります。

宇宙の創造は「愛」のエネルギーによって行われますが、その愛のエネルギーを突き動かすのは「喜び」のエネルギーであり、「愛」のエネルギーによってもたらされるのが「豊かさ」です。

この宇宙、そして皆さんのスピリットは、「愛と喜び」から生まれるといっても過言ではないかもしれせん。

そして、この宇宙が生まれてくることで大いなる「統合と豊かさ」がそこに現れてくるのです。

私達、創造をつかさどる者は、その純粋な「愛と喜び」によって生まれてきます。

私達、創造主の資質は、愛と喜びから形成され、「統合と豊かさ」をもたらしように作られているのです。

私達が、生まれた場所は、まさに「愛と喜びの世界」ですので、その世界をさらに広げていくことが、私達の存在する目的です。

皆さんが体験したマルチバースのすぐ上にある「愛の源の世界」は、私達が生み出された「愛と喜びの世界」を、皆さんに分かりやすいように表現したもので、そこから多次元宇宙やみなさんのユニバース(単一宇宙)が生まれてきました。

それでは、宇宙の意志と黄金の女神はどこから生み出されてきたのかというと、私達を包み込んでいる「愛と喜びの世界」ということになります。

「愛の源の世界」が物理的に存在するマルチバース(多次元宇宙)とそれに付属するスピリチュアルな世界を生み出したのと同じように、私達の世界は、形ある世界、形なき世界を含めてすべての宇宙を生み出して包み込んでいきます。

私達は、その世界から、皆さんの活動を見守っていますが、具体的に創造のための活動を行うのはセントラル・レースやクリスタル・レース、ドラゴン達なのです。

今回は、皆さんに創造の楽しさと豊かさを分かち合っていただくために、「喜びと豊かさの光」を送ることにしましょう。

これは黄金の女神からもたらされた「愛と統合の光」と一つになって完全なる調和のエネルギーをもたらすこととなります。

私達は共に働き掛け合って、さらに高次のエネルギーをいつも生み出していきます。

エネルギーは調和を目指して動きますが、その調和を目指す過程において、他のエネルギーと出会い融合しあうことで、さらに新しいエネルギーや宇宙が生まれてくるのです。

私達はいつもそのことを楽しんでいきます。

そのために、皆さんにも、この調和のエネルギーをもたらす2つのエネルギーを分けてお送りすることにしませう。

喜びと豊かさの光は、皆さんにすばらしい創造性とそこから生み出される豊かな「実り」をもたらすこととなるでしょう。

それは現実世界においても、常にわくわくとした好奇心に満ちた世界や自分の願いがかなう理想的な人生をプレゼントしてくれることでしょう。

皆さんが、自分の人生にたいして、もっと積極的に喜びを持って関わりあうことができるように私達は願っています。

そして、この人生の豊かな果実をたくさん手に取られてください。

果実たちは、あなたに与えられることを楽しみに待っているのです。